

問題1

岡崎から始まる家康公の生涯、その重き荷を背負った一生の、その先に開けた江戸時代は、人類史上にも誇るべき泰平社会で、この時代と社会を称して「パクス・トクガワーナ」と呼ばれています。この「パクス・トクガワーナ」を直訳すると、次の日本語になるでしょうか？

- (1) 徳川の時代 (2) 徳川の將軍
(3) 徳川の幕府 (4) 徳川の平和

解説

パクス(=Pax)とはラテン語で「平和」を意味します。「パクス・ロマーナ」とはローマ帝国の支配による平和という意味で、よく知られた言葉ですが、徳川時代もそれに匹敵する平和な時代という意味で使われたのでしょうか。元和偃武から戊辰戦争まで、徳川將軍家の治世のもと、250年の長きにわたる天下泰平が続いた日本。この、世界史上例をみない平和国家のなかで究極の循環型社会が構築され、現代に繋がる独自の日本文化が花開きました。



江戸の賑わい(日本橋界隈／江戸東京博物館)

問題2

世が激しく乱れた応仁の乱(1467～)から、戦国時代と呼ばれる乱世に入ってゆきます。

この応仁の乱から何年後に、岡崎城に家康公が生まれたのでしょうか？

- (1) 75年後 (2) 100年後
(3) 150年後 (4) 200年後

解説

家康公生誕の年は、応仁の乱(1467)が始まって75年後の天文11年(1542)です。戦国時代というのは大名たちが覇権を争った無秩序な時代を言いますが、終息は大坂夏の陣が終わった元和元年(1615)と考えられます。応仁の乱以来148年、つまり家康公は正に戦国時代の真ただ中に生まれ、その生涯を全て戦乱の時代の終息に費やしたということになります。家康公の生涯に学ぶとき、どのような意思で戦乱を生き抜き、どのような社会の実現を目指したのかを考える必要があるでしょう。



応仁の乱勃発地「上御霊神社」(京都市上京区)

問題3

天文^{てんぶん}11年、家康公は新田源氏系^{にったげんじ} 松平家^{まつだいらけ}の何代目の当主^{たんじゆう}として誕生したのでしょうか？

- (1) 八代目 (2) 九代目
(3) 十代目 (4) 十一代目

解説

大樹寺墓園^{だいじゆじぼえん}の北側^{はか}に「松平八代^{まつだいらはちだい}の墓^{はか}」があります。初代^{しうだい} 親氏^{ちかうじ}から八代^{はちだい} 広忠^{ひろただ}まで、その歴史^{きざし}を刻むように静かに佇んでいます。そして19歳^{おけはざま}の若き家康公が桶狭間^{おけはざま}の敗戦^{たいせん}後に自害しようとした場所^{ところ}がここです。この時に登誉上人^{とうよしゆうにん}から「厭離穢土^{おんりえど} 欣求浄土^{きんすじゆうど}」を諭^{さと}され、先祖^{せんぞ}の前^{まへ}で再起^{さいき}を誓^{ちか}います。「平和のために戦う^{せん}」という意味^{いみ}は55年後^{ごごごねん}に実現^{じつげん}され、徳川^{とくせん}の平和^{へい}をもたらしました。そして今、松平九代^{まつだいらくうだい} 家康公も先祖^{せんぞ}の横^{よこ}で共に眠^ねっています。



松平八代の墓(大樹寺／岡崎市)

問題4

家康公の意思^{いし}を継ぎ^{つぎ}、江戸265年の泰平^{たいへい}の時代^{じだい}を守り継いだ徳川幕府^{とくせんばくふ}。幕末^{ばくまつ}の大政奉還^{たいせいほうかん}まで、将軍^{しょうぐん}は何代^{だい}まで続いたのでしょうか？

- (1) 三代 (2) 九代
(3) 十五代 (4) 十八代

解説

徳川将軍^{とくせんしょうぐん}の名^なをすべて諳^{そら}んじている方は少ない^{すくない}のではと思います。これは致^{いた}し方^{かた}ないこと^{こと}と思います。何故^{なぜ}ならば江戸^{えど}の時代^{じだい}には大きな軍事^{ちか}的^{てき}政変^{せいへん}がなかつたからです。因^{よしのぶ}みに大政奉還^{たいせいほうかん}が行^{おこな}われ、戊辰戦争^{ごしんせんそう}が起きた時^{とき}は徳川慶喜^{とくせんけいき}が第十五代^{じゅうごだい}将軍^{しょうぐん}でした。ここでは各将軍^{かくしょうぐん}の名^なと在位年数^{ざいゐねんすう}を簡単に紹介^{かい}しておきましょう。

(在位年数は6ヶ月未満切り捨て)

初代 家康	二代 秀忠	三代 家光	四代 家綱	五代 綱吉	六代 家宣	七代 家継	八代 吉宗
2	18	28	29	28	3	3	29

九代 家重	十代 家治	十一代 家齐	十二代 家慶	十三代 家定	十四代 家茂	十五代 慶喜
15	26	50	16	5	8	1

問題5

家康公を生んだ額田郡(現在の岡崎市と額田郡幸田町を中心とした地域)の地は、鎌倉幕府を開いた源頼朝と深い関係があり、幕府の直轄地でもありました。額田郡と源頼朝とは、どのような関係があったのでしょうか？

- (1) 頼朝の生誕の地が額田郡であった。
- (2) 頼朝の父がもともと額田郡を含む三河国の国司であった。
- (3) 頼朝の母方の祖父が熱田大宮司であるとともに額田冠者であり、額田郡を領していた。
- (4) 頼朝が平家打倒の兵を挙げたのが額田郡であった。

解説

源頼朝は熱田大宮司 藤原季範の娘が母です。季範はその領地が額田であったことが系譜に示されており、言い換えれば、頼朝の母方の実家が額田であったということになるのです。頼朝は鎌倉幕府を開いた際に、この地域を含めた三河一国を関東御分国(幕府直轄領)としたのもこのような地縁からではないかと考えられます。同時に矢作川を中心とする地域が、古くから軍事的に東西を分ける重要な地域であったという点も考えなくてはならないでしょう。



源頼朝生誕地碑
(誓願寺/名古屋市熱田区)

解答… (3)

問題6

源頼朝と額田郡の関係を示す文化財のひとつに、頼朝と等身大の聖観音像があり、体内に頼朝の歯と髭が埋め込まれています。この聖観音像が安置されている岡崎市(旧額田郡)の寺社は何というのでしょうか？

- (1) 熱田神宮
- (2) 大樹寺
- (3) 瀧山寺
- (4) 鶴岡八幡宮

解説

源頼朝は平清盛によって14歳で伊豆の蛭ヶ小島に流されました。『吾妻鏡』には、その際に瀧山寺の僧 祐範が従者をつけ、毎月使者を送ったと記されています。祐範は熱田大宮司 藤原季範の子であり、頼朝にとっては叔父に当たる人物です。頼朝はその恩を忘れず、幕府を開いた後に季範の孫で従兄弟に当たる瀧山寺の僧 寛伝を日光山輪王寺の座主(最高職)に抜擢しました。後に瀧山寺に帰った寛伝は頼朝の死後、瀧山寺内に「総持禅院」を建立、運慶・湛慶に製作を依頼した等身大の聖観音像を安置したのです。



頼朝配流の地「頼朝と政子の像」
(蛭ヶ小島/伊豆の国市)

解答… (3)

問題7

鎌倉時代の前期、ある出来事から足利氏一門は三河国に呼び寄せられ、矢作川流域に配置されました。足利氏が三河に進出することとなった理由は何だったのでしょうか？

- (1) 源 頼朝が朝廷と鎌倉幕府の境界線を矢作川に定めたこと。
- (2) 承久の乱で功を挙げた足利義氏が、三河国の守護に任じられたこと。
- (3) 元の鎌倉襲来を矢作川で防ぐため、足利家時が三河国に派遣されたこと。
- (4) 南朝側の新田義貞と北朝側の足利直義が矢作川で合戦をしたこと。

解説

足利氏は新田氏と並んで源 義家を祖とする源氏の一門です。鎌倉幕府北条氏執権体制の中では要職にあり、承久3年(1221)、執権 北条義時の時に勃発した「承久の乱」(後鳥羽上皇による幕府に対する反乱)では、義時の執事であった足利義氏が幕府軍の先陣としてその鎮圧に当たりました。ここで軍功を挙げた義氏は幕府直轄領(御分国)である三河国の守護に抜擢されます。義氏は一族を挙げて矢作川流域に集住させ、後に足利尊氏が鎌倉幕府に反旗を翻した時には、西三河の一門が結集し大きな力となったのです。



足利義氏肖像
(鏝阿寺蔵／足利市)

解答… (2)

問題8

三河国に移った足利氏の一門は、居城を構えた土地の名を名字とし、室町～戦国時代には、細川氏や仁木氏などの有力な大名となってゆきます。次の中で、足利一門に属さない氏はどれでしょうか？

- (1) 一色
- (2) 今川
- (3) 吉良
- (4) 前田

解説

矢作川流域に領地を得た足利一門は、その地名を名字としました。仁木、細川、長瀬、上地、吉良、今川、一色などが有名です。前田氏は前田利家で有名ですが、先祖は尾張国荒子に所領地を持つ国人衆であったと伝えられます。矢作川流域には足利氏の被官衆(家臣団)も多く居住しました。特に岡崎大門付近には倉持氏、菅生川北岸・南岸(矢作東宿)には高氏、額田山中には粟生氏が根を下ろしました。大門にある八剣神社に足利尊氏の石宝塔が存在するのもこのような背景からでしょう。



足利尊氏石宝塔(八剣神社／岡崎市)

解答… (4)

問題9

時宗の僧 徳阿弥と称して諸国を行脚した後、三河国加茂郡松平郷の松平太郎左衛門家に養子に入ったと伝わる、新田系松平氏の初代は誰でしょうか？

- (1) 有親 (2) 親氏
(3) 広親 (4) 義家

解説

松平初代 親氏は、その経歴を巡って様々な説があり明らかではありません。『松平由緒書』によれば、親氏は諸国を流浪する時宗の僧で、名を徳阿弥と称していました。徳阿弥は松平太郎左衛門の養子となり還俗して親氏と称します。そして近隣の村々を支配しながら次第に勢力を強めていったのです。親氏は額田の山中を切り開きながら「中山七名」と呼ばれる豪族たちを従え、やがて菅生川の上流に到達しました。ここからの舟運によってその財力を蓄えたとも考えられます。松平氏発展の礎を築いたのです。



松平親氏木像(松平郷館／豊田市)

解答… (2)

問題10

松平三代 信光は、二代目の叔父 泰親とともに三河山間部の松平郷から矢作川流域への進出を図り、岡崎の北部に城を構えました。何という城でしょうか？

- (1) 井田城 (2) 岩津城
(3) 岡崎城 (4) 東条城

解説

松平初代 親氏はその勢力を広げましたが、矢作川の支流で松平郷の西を流れる巴川流域には加茂郡の豪族たちが城を構えており容易に進出することができませんでした。親氏の跡を継いだ二代 泰親は親氏の子である信光と共に松平郷から岡崎平野への進出を試み、岩津地域の豪族 中根大善を滅ぼして進出に成功したのです。やがて泰親の跡を継いだ信光は三代目の当主となり、岩津城を築きました。そして一門を岩津城の周囲に住ませ守りを強固なものに(岩津七城)、さらに菩提寺として信光明寺を建立、その結束力を強化したのです。



岩津城址碑(岡崎市岩津町)

解答… (2)

問題11

松平四代 親忠^{ちかただ}は、応仁の乱以後この地方で起こった争い^{あらそ}を鎮圧^{ちんあつ}し、一門のリーダーとしての存在^{そんざいかん}感を高めました。親忠が、一族の氏神^{うじがみ}として、また、武運長久^{ぶうんちやうきう}の祈願所^{きがんじょ}として創建した寺社はどこでしょうか？

- (1) 伊賀八幡宮 (2) 岡崎八幡宮
(3) 浅間神社 (4) 六所神社

解説

松平四代 親忠は初めから信光の跡を継いだわけではありませんでした。岩津城には信光の長男である親長^{ちかなが}がいましたが(※「三河物語」より。他に親忠の長男とする説もあり)、応仁の乱(1467年)後、加茂の豪族たちにより、この地域で起こった「第一次井田野合戦」を鎮圧した三男の親忠が、一門のリーダーとして認められるようになったと考えられます。そして文明2年(1470)には松平氏の祈願所として、一族の結束を期して創建されたのが伊賀八幡宮でした。



伊賀八幡宮随神門(国重文／岡崎市)

問題12

勢^{せい}譽^よ愚^ぐ底^{てい}上人^{しやうにん}を開基^{かいき}に、松平四代 親忠が一族の菩提^{ぼだい}寺として創建した寺社はどこでしょうか？

- (1) 信光明寺 (2) 大樹寺
(3) 方広寺 (4) 法蔵寺

解説

文明7年(1475)、松平四代 親忠^{ちかた}は宗家^{そうけ}の菩提寺として大樹寺を創建しました。親忠は、以前からその教義に深く帰依^{きい}し、師檀^{しだん}の關係を持っていた勢^{せい}譽^よ愚^ぐ低^{てい}を呼び寄せて開山とし、鴨田^{かもだ}にあった自分の居館跡^{きくわんせき}に堂宇^{どうう}を建立したと伝えられます。これが大樹寺です。「大樹」とは中国の言葉で「將軍」を意味しています。松平一族からいずれ將軍が誕生することを念じていたのでしょうか。開山の時の様子を記した大樹寺の史料(「開山式定」)によれば、多くの松平一門^{ほうがちやう}が奉加帳^{ほうかちやう}に名^なを連ねていることがわかります。



勢譽愚底像(大樹寺蔵／岡崎市)

問題13

松平四代 親忠から七代 清康までが本拠を置いた城はどこでしょうか？

- (1) 安城城 (2) 岩津城
(3) 桜井城 (4) 西尾城

解説

松平三代 信光は文明3年(1471)に安城城を奪いました。これにより安城松平家が始まると伝えられますが、親忠は文明7年(1475)に大樹寺を創建したとされており、親忠が安城城に移った正確な時期は明らかではありません。しかし親忠が安城松平家として宗家を継ぎ、五代 長親、六代 信忠、そして七代 清康と安城松平家が宗家を世襲したのは確かです。清康は岡崎城を拠点にした後も安城宗家を名乗っていた様子が、大樹寺多宝塔の心柱銘文に記された「世良田次郎三郎清康安城四代岡崎殿」からも分かります。



大樹寺多宝塔(国重文/岡崎市)

解答… (1)

問題14

松平七代 清康が本拠地を岡崎に移すにあたっての山中城攻めで功があり、岡崎城下の市場の税を免除して諸国から商人を集め、松平家の新しい城下町の発展にも功績があった忠茂とは、家康公の家臣の誰の祖父でしょうか？

- (1) 大久保忠世 (2) 酒井忠次
(3) 鳥居元忠 (4) 本多忠勝

解説

大久保氏の先祖は宇都宮氏を名乗り、南北朝争乱の時代に上和田付近(岡崎市上和田町)に居住したと伝わります。後に宇津氏を名乗り、松平清康が進出した際に功績のあった忠茂の時に大久保(大窪)姓になりました。忠茂は清康から市の「枅取」(税の管理権)を得、本格的な市を開いたと伝えられます。以後、松平家の譜代家臣として代々仕えることになりませんが、特に家康公の父 松平広忠が岡崎城を追われていた時、忠茂の子である忠俊が広忠の帰還のために活躍したことは有名です。忠俊の甥が忠世であり小田原城主となります。



大久保氏の先祖 宇都宮泰藤の
供養碑(妙国寺/岡崎市宮地町)

解答… (1)

問題15

松平清康が正月に見たと伝えられる、「是の字」を握っている夢の意味を、龍溪院の摸外和尚はどのように解釈したのでしょうか？

- (1) これから行くことが、「是」(正しい)という意味
- (2) 是は握りつぶして、「非」(正しくないこと)を行え、という意味
- (3) 「是非」ともにすべてのことが思いどおりになるという意味
- (4) 日の下の人を握ったことで、「天下人」を手の中にしたという意味

解説

家康公の祖父である松平清康は、松平宗家の中では最も勢力を広げた武将でした。「是の字の夢」は、清康が拠点菅生川の南にあった居館から現在の位置(龍頭山)に移す年、享禄3年(1530)の正月に見たものと伝えられます。是の字の意味を「日下人=天下人」と説いた龍溪院の摸外和尚を開山として龍海院を創建し、居城を移した清康は新たな気持ちで東三河の統一に乗り出しました。



「是の字寺」龍海院(岡崎市明大寺町)

問題16

幼くして父 清康を亡くし流浪の身となった嫡男の広忠は、誰の助けを受けて岡崎城主に復帰できたのでしょうか？

- | | |
|----------|----------|
| (1) 今川義元 | (2) 織田信秀 |
| (3) 武田信玄 | (4) 北条氏康 |

解説

松平七代 清康が尾張国守山の陣中で横死した時、子の広忠は僅かに10歳の少年でした。誤解からとはいえ、清康を斬った阿部弥七郎の父 定吉は、安城桜井の松平信定によって岡崎城を奪われた広忠を伴い諸国(伊勢、遠江、駿河)を流浪します。その際に今川義元の援助を受けたと伝えられています。2年後、東条吉良氏の支援を受けた広忠は、義元の後ろ盾もあり、無事、岡崎城に帰還することができました。広忠は生涯その恩を忘れず今川方に属し、西三河への進出を強めていた尾張の織田氏と対立することになります。



今川義元像(臨濟寺/静岡市)

問題17

家康公が生まれた時代はどのような時代だったのでしょうか？

- (1) 室町幕府の力が全国に及び、安定した武家政治が行われていた。
- (2) 応仁の乱が起り、全国の大名家や武将が東軍と西軍に分かれ争っていた。
- (3) 戦国時代の真ただ中であり、各地に有力な戦国大名が群雄割拠していた。
- (4) 織田信長による天下統一事業が進んでいた。

解説

応仁元年(1467)に京都で細川氏と山名氏による騒乱が勃発してから、その影響は全国に波及し各地で在地武士たちによる争いが頻発するようになりました。これらの争いは主に領地を広げるといふ野心的なものが多かったのですが、主君と家臣という秩序も崩れ、いわゆる「下克上」と呼ばれる弱肉強食の時代になっていったのです。16世紀に入ると、優秀な統治者が地域をまとめ始め、次第に群雄割拠の様相を呈するようになります。今川、武田、上杉、後北条氏などが代表的な戦国大名です。家康公はこのような時代に生まれたのです。



分国法「甲州法度之次第」
(東京大学法制資料室)
信玄の領国支配を進めた分国法。

問題18

家康公生誕の年に、岡崎では織田氏と今川氏による大きな合戦が勃発していました。何という合戦でしょうか？

- (1) 小豆坂の合戦
- (2) 井田野の合戦
- (3) 蟹江合戦
- (4) 日近合戦

解説

織田信長の父 信秀は尾張国内で勢力を伸ばすと、西三河の矢作川流域への進出を試みました。天文9年(1540)には、もともと松平宗家の居城であった安城城を攻略、危機感を強くした岡崎城の松平広忠は、安城城の奪還を期して兵を出しますが大敗してしまいます。その後は周辺の松平一門も織田方に従うようになり、四面楚歌の状態になった広忠は駿河の今川義元に救援を求めました。天文11年(1542)8月、織田信秀と今川義元は小豆坂で激突、双方が多くの犠牲者を出しながら痛み分けとなりました(第一次小豆坂合戦)。この年の12月、家康公は誕生したのです。



小豆坂古戦場碑(岡崎市羽根町)

問題19

家康公の母 於大が、乱世を取める強い男子の誕生を祈願したと伝わる寺社はどこでしょうか？

- (1) 伊勢神宮 (2) 諏訪神社
(3) 鳳来寺薬師堂 (4) 楞嚴寺

解説

「鳳来寺縁起」によれば、家康公の母 於大は鳳来寺薬師堂に参り、強い男子の出生を祈願したと伝わります。薬師如来は人々を苦しみから救う仏として古代から信奉された如来ですが、通常その周りには十二体の守護神が守っています。薬師如来の十二の大願に
 応じて、それぞれが十二の年(時間や月、方角など)を守るといわれ、そのため十二支が配当されています。家康公が生まれたのが寅年であることから、鳳来寺薬師堂の十二神将の内、寅年の守護神「真達羅大将」が忽然と消えた伝承が残ります。



真達羅大将(鳳来寺本堂/新城市)

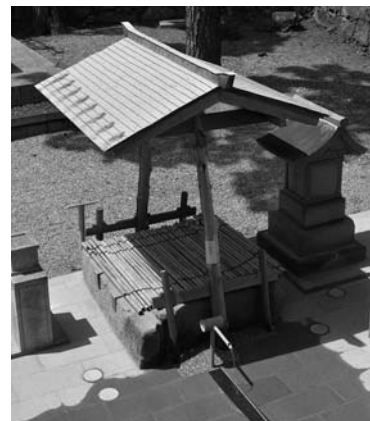
問題20

家康公生誕にまつわる伝説には、当時の人々の思いや願いが表されています。生誕の時に、岡崎城本丸の井戸から天に立ち昇ったと伝わるものは何でしょうか？

- (1) 金鱗の龍 (2) 真達羅大将
(3) 風神・雷神 (4) 鳳凰

解説

岡崎城本丸に鎮座する龍城神社の社伝には、家康公生誕の時に本丸井戸「龍ヶ井」から金鱗の龍が天に立ち昇ったと記されています。この伝説はもともと岡崎城の位置する丘が「龍頭山」と呼ばれ、岡崎城を別名「龍ヶ城」と呼んでいることから考えられる内容です。乱世に苦しむ当時の人々の祈りや願いが表されているのであり、岡崎城の松平宗家も非常に苦しい状況だったことを考えると、このような伝承が残されたのでしょうか。家康公の生誕に願いを託す当時の人々の祈りが伝わってくるようです。



龍ヶ井(岡崎城本丸/岡崎市)

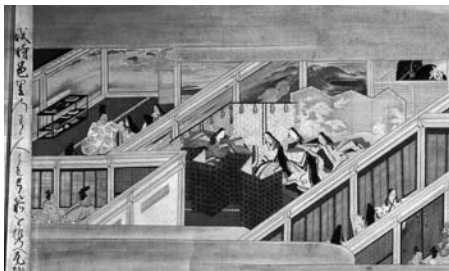
問題21

家康公誕生の様子ようすが描かれた「東照社縁起絵巻」えが
とうしょうしゃのえんぎ えまき
 (日光東照宮蔵)にっこうとうしょうぐうぞうには、偉人うぶの出生伝説しゅつせつに因み、産
 屋うぶやに、ある動物どうぶつが描かれています。それは何でし
 ょうか？

- (1) 馬うま (2) 猿さる
 (3) 虎とら (4) 雉きじ

解説

『東照社縁起絵巻』には、竹千代の誕生を
 喜ぶ女性たちのすぐ隣の部屋に二頭の馬が
 描かれています。イエス・キリストや聖徳太子など、
 英雄えいゆうは厩うまや(馬小屋)で産まれるという伝説でんせつになぞらえ
 たものでしょう。キリストも太子も後には信仰の対
 象しやうにもなっており、東照大権現とうしょうだいこんげんとして神かみとなった家
 康公に、一層の権威けんいを付けることを狙ったものと考え
 られます。縁起絵巻えんぎは寛永12年(1635)、狩野探幽かのう たんゆう
 によって製作が始められました。祖父を敬愛していた
 三代将軍 家
 光の意向が強く反映されて
 いると考えら
 れます。



「東照社縁起絵巻」より(日光東照宮蔵)
 右上に白と黒の馬が描かれている。

問題22

6歳さいになった家康公(竹千代)は今川家たけちよの人質ひとぢとし
 て駿府すんぶ(静岡市しずおか)に向かう途中みち、田原城主たはらの戸田康
 光とだやすにより他家ほかに送られてしまいます。家康公が送
 られた先はどこだったのでしょうか？

- (1) 尾張 織田家おわり (2) 甲斐 武田家かい
 (3) 伊勢 北畠家いせ (4) 相模 北条家さがみ

解説

東三河に勢力を持っていた戸田氏でした
 が、勢力を拡大する松平氏に押されていま
 した。松平氏が清康死後没落すると、戸田氏も松平
 氏とともに今川氏へ臣従していました。戸田康光の
 娘 真喜姫まきひめは広忠けいしつの継室しんじむとなっており、信用のおけ
 る相手であったはずでしたが、織田氏へと寝返って
 しまいました。怒った今川義元は、康光を討ち取り、
 戸田家は滅びてしまいました。しかし、別の家おこを興
 していたため、寝返りに同調しなかった康光の次男
 は、後に家康公に
 仕え、譜代大名と
 なっていきます。



長興寺戸田氏一族の廟所(田原市)

問題23

2年後、人質交換で改めて駿府に送られた竹千代が、岡崎から付き従った側近の鳥居元忠に無理難題を命じ、できなかった元忠を縁側から蹴り落としたという逸話が伝わります。どのような命令だったのでしょうか？

- (1) 犬を馬のように育てよ
- (2) 猫を虎のように育てよ
- (3) 蛇を龍のように育てよ
- (4) 百舌鳥を鷹のように育てよ

解説

古来より権威の象徴でもあった鷹狩りは、次第に武士階級への広がりを見せていたものの、人質という身分である竹千代にとって鷹は手の届かない贅沢品でした。そこですでに側近として仕えていた鳥居元忠に「百舌を鷹のように育てよ」と命じたのですが、当然のように失敗してしまい、元忠は縁側から蹴り落とされてしまいます。それを聞いた元忠の父忠吉は、我慢した元忠を褒めると共に、竹千代に対しても「大将の器」と絶賛したのです。



鳥居元忠像(常楽寺蔵/栃木県壬生町)

問題24

竹千代が駿府で教育を受けた今川家の重臣で、軍師であり臨濟宗の名僧でもあったのは誰でしょうか？

- (1) 運慶
- (2) 太原雪齋
- (3) 登誉上人
- (4) 山本勘介

解説

今川氏親のころ、大きく発展した今川家も、氏親の跡を継いだ氏輝が早世すると、出家していた二人の弟が跡目をめぐり、対立してしまいます。この時勝利した、後の義元を支援していたのが太原雪齋です。義元が僧となるための修行に同行し、また還俗後も常に義元を支え続け、内政・外交・軍事と全てにおいて活躍した、今川家の「黒衣の宰相」とも言える人物です。今川義元が桶狭間で織田信長に敗死したのは、軍師雪齋が亡くなった5年後のことでした。



太原雪齋像(臨濟寺/静岡市)

問題25

元服して、今川義元の一^な字^のを賜^{たま}り元信^{のぶ}を名乗^なった家康公が、正室^{せいしつ}(妻^{つま})に迎^{むか}えたのはどのような立場の女性^{めい}だったのでしょうか？

- (1) 将軍 足利義輝^{よしてる ようじよ}の養女 (2) 今川義元^{めい}の姪
(3) 織田信長^{とよとみひでよし}の妹 (4) 豊臣秀吉^{めい}の娘

解説

元服した元信の正妻^{つきやまどの}となった築山殿は、今川一門の瀬名氏出身 関口義広の娘です。母は今川氏親の娘であり、義元^{せな}の姪^{せきぐちよしひろ}となります。この婚姻により、元信は義元の近い親族となり、今川家中での立場を強めていきます。元信の素質を認めるとともに、松平家をよりいっそう今川傘下に取り込みたかったので、桶狭間の戦いで義元が討死した後、松平家が独立に動く^{さんか}と、関口義広は今川氏真^{うじざね}から切腹を命じられ、両者の血縁は薄れていったのです。



「築山殿」通称のもと「築山稲荷社」(岡崎市中町)菅生郷築山に居住していたという。

問題26

祖父 清康の武名^{ぶめい}にあやかり元康^{もとやす}と改名^{かいてい}した家康公は、初陣^{ういじん}で三河 寺部城^{てらべ}を攻めました。義元^{せな}の命令^{めい}で寺部城を攻めた理由はなんだったのでしょうか？

- (1) 松平宗家^{そうけ}に従^{したが}わない桜井^{さくらい}の松平信定^{のぶさだ}が寺部城に立てこもったため
(2) 織田方^{おだかた}の寺部城主 鈴木氏^{すずき}が今川方^{いまがわ}の安城城^{やすき}を攻めたため
(3) 今川方^{いまがわ}だった寺部城主 鈴木氏^{すずき}が織田方^{おだかた}に寝返^{ねかえ}ったため
(4) 今川の前線^{ぜんせん}基地^{きち}として、尾張^{おわり}に近い寺部城^{てらべ}が欲^ほしかったため

解説

桶狭間の戦いで今川家と織田家の間には圧倒的な戦力差があったようにイメージされがちですが、実際には両家の戦力^{きっこう}は拮抗^{きっこう}していました。中小の領主^{りはん}は、三河の地を巡り争^{ふくぞく}う両家の間で離反・服属^{りはん}を繰り返します。寺部の鈴木氏もその一つで、今川から離反して織田についたことを理由に攻撃の命令^{めい}が下されたのでした。この初陣^{ういじん}で元康^{もとやす}が予想を上回る戦功^{せんこう}を挙げたことを喜んだ義元^{せな}は、元康^{もとやす}に褒美^{ほうび}として三河国額田 山中^{やまなか}の旧領三百貫文^{さんひゃくかんもん}を返還^{へんかん}しています。



寺部城址「寺部陣屋跡」(豊田市寺部町)

問題27

桶狭間の合戦で今川義元が織田信長に討たれた頃、先陣で兵糧入れを命じられていた元康は尾張のどこの城にいたでしょうか？

- (1) 大高城 (2) 清洲城
(3) 名古屋城 (4) 鳴海城

解説

今川義元は尾張国進出の拠点として、鳴海城と大高城を手中に収めていました。ところが信長の築いたいくつかの砦に囲まれ、食料や物資の補給が困難になってしまったのです。義元は救援要請のあった大高城に兵糧を運び込む任務を「先陣」として若い元康に与えたのでした。砦の下を通らなければならない困難な務めを果たした元康は、大高城に居陣して義元本隊の到着を待っていたのです。



大高城「二の丸」跡(名古屋市緑区大高町)

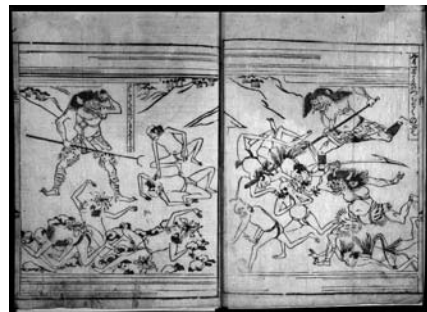
問題28

今川義元 討死の知らせを受けた元康は岡崎へ退却し、大樹寺に入ります。回りを敵に囲まれ、先祖代々の墓の前で自害しようとする元康でしたが、登壇上人にある言葉を授けられ、泰平の世を築くことを志します。それは何という言葉だったでしょうか？

- (1) 厭離穢土 欣求浄土 (2) 天上天下 唯我独尊
(3) 南無阿弥陀仏 (4) 南無妙法蓮華經

解説

源信(恵心僧都)による『往生要集』の中に見られる「厭離穢土 欣求浄土」とは、穢れた現世を厭い離れ、清浄な浄土を願い求めるという意味です。戦争に明け暮れ、平穏な時間が束の間でしかない戦国の世の中から、恒久的な平和へと導くために戦う。義元討死によって指針を失い、絶望を抱えていた元康にとって、この言葉は生きる意味、戦う目的となりました。以来、家康公はこの八文字を旗印として採用しています。



往生要集「厭離穢土」の図(東京国立博物館蔵) 地獄の様子が描かれる。

問題29

今川家から独立した元康は、尾張の織田信長と軍事同盟を結びます。この「清洲同盟」とは、どのようなものだったのでしょうか？

- (1) 徳川は織田の天下平定に協力する
- (2) 織田は徳川の天下平定に協力する
- (3) 天下平定に向け、対等に協力しあう
- (4) 徳川は織田の家臣となって戦う

解説

清洲同盟は本能寺の変で信長が死去するまでの21年間、1度も破られることの無かったという、当時としては非常に珍しいものでした。信長の勢力が圧倒的なものとなってきた頃には従属的な関係性へと変化しつつあったものの、対等な立場でお互いに協力し合い、織田は西へ、松平は東へ専念できる環境が出来上がりました。この同盟が結ばれなければ、両家が戦国大名として大きく飛躍することはなかったでしょう。また「愛知の三英傑」を生んだきっかけになったのもこの同盟があったからでしょう。



清洲城本丸跡(清須市)
現在の模擬天守の対岸が本来の清洲城址。

問題30

元康から家康に改名した家康公を三河一向一揆が襲います。三河一向一揆は家康公の生涯における大きな危機のひとつに数えられますが、それはどのようなことからでしょうか？

- (1) 一揆側に岡崎城を攻められ、落城寸前まで追い詰められたから
- (2) 一揆側に敗れ、討ち死にしそうになったから
- (3) 譜代の家臣団が一揆側と家康側に二分して戦うことになってしまったから
- (4) 三河の寺院のほとんどが一揆側に味方し、領民も家康公に敵対したから

解説

主君への忠義か、仏への信仰か。三河一向一揆ではどちらを選ぶかで家臣団が二分され、争うこととなってしまいました。酒井、石川、本多、鳥居などの有力な家臣からも敵方へ回る者が出てしまいました。さらに反家康派の武将や一門衆が一揆方に加担したことにより、戦いは拡大していきますが、次第に家康公側が優勢になり、また和議の条件を譲歩したこともあり、およそ半年で終了します。家中の結束を強固なものとし、有力な武将を失わずに取り込むことで、強い松平家を築くことを優先したのです。



三河一向一揆繪図
〔改正三河後風土記〕より

問題31

次の松平家臣団のなかで、一揆側ではなく、家康公に味方したのは誰でしょうか？

- (1) 酒井忠次 (2) 夏目吉信
(3) 本多正信 (4) 渡辺守綱

解説

松平家とは親族である酒井家の武将でありながら、一揆方に味方したのが忠次の叔父(兄とも)忠尚です。上野城主であった忠尚は、榊原康政の兄 清政らを率い、家康公に反逆します。しかし、一揆が収束すると忠尚は駿府へ逃れ、その後の消息が不明となってしまいます。『三河物語』では家康公に匹敵するほどの権勢を持っていたことが記されていますが、忠尚の系統は絶たれてしまい、逆に家康公に味方した忠次は家康公の側近として数多くの活躍を残していきます。



隣松寺(豊田市幸町)
一揆の際、家康公が本陣を置いたとされる。

問題32

一向一揆を鎮め、三河統一を目指す家康公は、民政の充実を図り、高力清長・本多重次・天野康景の三人を内政官として設置します。この三人を総称して何と呼ぶでしょうか？

- (1) 徳川三傑 (2) 三河三奉行
(3) 三備の制 (4) 山家三方衆

解説

一向一揆が収束し、家中の結束が強まる中、家康公は軍制の再整備を行い、更なる飛躍を目指します。「三備の制」を採用し、東西三河旗頭のもとに、まとまった部隊を編成するとともに、強力な親衛隊ともいえる旗本先手役を手元に確保します。その一方で、「仏高力 鬼作左 どちらへなしの天野三兵」と後に謡われたように、性格の異なる3人の武将を内政官として設置します。この三河三奉行が三者三様の民政を行い、領民の生活向上に大いに貢献しました。家康公の人材登用術の巧みさが垣間見えます。



本多(作左衛門)重次生誕地碑
(犬頭神社/岡崎市宮地町)

問題33

三河を平定した家康公は、朝廷から從五位下三河守に任じられ、姓を「松平」から先祖が名乗っていたとされる「徳川」に復すことを許されました。戦国大名 徳川家康の誕生です。このとき、家康公は何歳だったでしょうか？

- (1) 19歳 (2) 25歳
(3) 29歳 (4) 35歳

解説

19歳で今川家から独立して6年。すでに今川義元から頂いた元康の名を捨て家康を名乗っており、一向一揆を乗り越え、祖父 清康が果たした三河統一をも果たした今、徳川の姓を名乗ります。源氏一族新田氏の庶流、世良田氏の末裔、先祖は得川郷の出ゆえに徳川を名乗り、朝廷から三河守の叙任も許されました。この時から「徳川家康」が誕生、時に25歳。岡崎から堂々と戦国大名が立ち上がり、この時から50年の生涯を江戸泰平に向けて生きていきます。



徳川家康木像(国重文／知恩院蔵)
若き家康公の表情に近いのではないかな。

問題34

今川氏真が降伏し、三河、遠江の大名となった家康公は本拠を浜松城に移しました。家康公に代わり、岡崎城の城主となったのは誰でしょうか？

- (1) 石川数正 (2) 酒井忠次
(3) 本多重次 (4) 松平信康

解説

今川攻略のため、当初、大井川を境に今川領を分割するという条件で甲斐の武田信玄と手を組んでいた家康公でしたが、武田家が約束を違え、遠江へ侵攻する動きを見せていたため、手切れとなっていました。そこで、今川家滅亡後は東の武田家に備えるために、浜松へと居城を移したのです。岡崎城主には嫡男の信康を置き、石川数正や平岩親吉らを傍に置きました。信康は祖父 広忠と同様に岡崎三郎を名乗っており、岡崎の領主としての強い意識が見て取れます。



岡崎三郎信康像(勝蓮寺蔵／岡崎市)

問題35

家康公は浜松時代に次の4つの大きな合戦をしますが、順番が正しいのはどれでしょうか？

- (1) 三方ヶ原→姉川→小牧・長久手→長篠・設楽原
- (2) 三方ヶ原→小牧・長久手→姉川→長篠・設楽原
- (3) 姉川→三方ヶ原→長篠・設楽原→小牧・長久手
- (4) 姉川→長篠・設楽原→三方ヶ原→小牧・長久手

解説

浜松に移った家康公に、盟友 織田信長の危機が迫ります。室町幕府十五代将軍足利義昭の呼びかけに応じた大名による信長包囲網です。家康公はこれに応じず織田家と協力して、姉川の戦いで浅井・朝倉連合軍と、三方ヶ原の戦いで武田信玄と、そして長篠の合戦では信玄の後を継いだ武田勝頼と戦います。武田家が滅亡した後に本能寺の変で今度は信長が亡くなると、織田家臣として勢力を伸ばした羽柴秀吉との間で小牧・長久手の戦いが繰り広げられたのです。



姉川合戦屏風より「家康本陣」部分
(福井県立博物館蔵)

問題36

天正7年(1579)、家康公は信長の命令により正室の築山殿と嫡男の信康を失います。この処断の理由のひとつが、敵に内通したというものですが、敵とは誰のことでしょうか？

- (1) 足利義昭
- (2) 真田昌幸
- (3) 武田勝頼
- (4) 本願寺顕如

解説

信康の妻、徳姫が父の信長に送ったとされる12箇条の手紙があります。内容の全てが伝わっているわけではありませんが、信康の悪行や、築山殿が武田勝頼と内通していることなどが記されていたとされます。使者に赴いた酒井忠次はその内容を否定できず、結果両者は死罪となったと伝わります。信康と徳姫の間に男児はいませんでした。2人の女児がおり、妹の熊姫は本多忠勝の嫡男 忠政の正室となりました。



武田勝頼像(高野山持明院蔵)

問題37

天正10年(1582)、武田氏が滅び、信長より駿河国を与えられた家康公は、信長に招かれ上方に上りましたが、京本能寺で信長が明智光秀に討たれてしまいました。家康公は急ぎ伊賀越えて岡崎に戻りますが、そのとき、家康公一行はどこにいたのでしょうか？

- (1) 京都 知恩院 (2) 京都 伏見
(3) 泉州 堺 (4) 大和郡山

解説

近年、明智光秀の家臣の遺した『本城惣右衛門覚書』により、明智の軍勢が京へと向かっているのは徳川討伐の為であると、光秀の家臣たちは認識していたことがわかってきました。本能寺の変については様々な説があり、その真実は不明ですが、京を訪れた家康公一行は、一週間におよぶ滞在の後、堺見物へと出かけ、僅か一泊の滞在中に出立しています。そしてその時に本能寺の変が勃発、家康公一行は茶屋清延や服部正成の活躍もあって伊賀越えを敢行、無事、岡崎まで帰ることが出来ました。



妙国寺(堺市)家康公一行の宿泊地

問題38

家康公は信長の二男 織田信雄を援け、信長亡き後、台頭してきた羽柴秀吉と小牧の地で対決をします。長久手での局地戦で勝利した家康公でしたが、秀吉との講和を余儀なくされました。それはなぜでしょうか？

- (1) 秀吉軍が岡崎城に攻め入ったから
(2) 織田信雄の拠点である清洲城が占拠されたしまったから
(3) 朝廷から和議の使者が遣わされたから
(4) 戦の協力を要請してきた信雄が秀吉と単独で和睦し、大義名分を失ったから

解説

小牧・長久手の合戦は、秀吉と家康公がこの後の天下一統を決定付ける、正に「天下分け目の合戦」であったと評価されています。信長の後継者として頭角を現した秀吉に対し、信長二男の信雄の要請もあり果敢に挑みかかっていたのです。戦いは犬山—小牧—長久手と尾張の広範囲にわたって繰り広げられました。家康公は長久手の合戦で勝利しますが、その後、北伊勢から美濃を攻められた信雄が単独で秀吉と講和し、戦の大義を失くした家康公は秀吉と停戦、和睦をします。



小牧山からの眺望。信長が築城した要害で家康公が本陣を置いた。

問題39

関白かんぱくとなった豊臣秀吉の妹を正室に迎え、秀吉に臣従し、5ヶ国の大名となった家康公は本拠を浜松から移します。それはどこでしょうか？

- (1) 小田原おだわら (2) 甲府こうふ
 (3) 駿府 (4) 伏見

解説

家康公にとって、人質とはいえ幼少期から青年期を過ごした駿府は懐かしい第二の故郷ふるさとだったのかも知れません。三河、遠江、駿河に加え、新たな領国となった甲斐、信濃には、まだ武田の遺臣たちも残っています。この2ヶ国の経営を重点的に行うにあたり、重要な拠点となるのが駿府でした。天正14年(1586)、城郭を整備した家康公は、29歳から45歳までの激動の17年間を過ごした浜松から、その居城を駿府に移しました。



駿府城東御門(静岡市)

問題40

秀吉の小田原攻めの結果、家康公は降伏した北条氏の領国りょうこくであった関東に国替えくにかがになります。家康公が初めて江戸城に入った日は、江戸時代、めでたい日として幕府ぼくふの式典が開かれましたが、それはいつでしょうか？

- (1) 2月1日 (2) 6月1日
 (3) 8月1日 (4) 11月1日

解説

北条氏の滅亡後、関東移封を命じられた家康公は、地盤である三河の地を離れることとなってしまいます。北条氏の本拠であった小田原ではなく、江戸城を居城に選んだ家康公は、天正12年(1590)8月1日(朔日)に入府します。これを記念して、江戸幕府は「八朔」を元日に次ぐめでたい日としました。元々は豊穰を祈願する儀礼でしたが、江戸時代には武士達が白帷子をまとい、将軍家に拝謁する行事が行われました。



吉原「八朔」(江戸名所図会)

問題41

秀吉による朝鮮出兵は2度にわたって行われました。1回目は「文禄の役」といわれますが、2回目は何というのでしょうか？

- (1) 応仁の役 (2) 元禄の役
(3) 慶長の役 (4) 天正の役

解説

小田原の陣で北条氏を滅ぼし、東北の大名たちも従えた秀吉は、家康公を関東に移封すると2年後の文禄元年(1592)には明国への進出を企てました。肥前国(佐賀県)に巨大な名護屋城を築き、家康公を始めとする全国の各大名も陣を構えたのです。ところが通り道であったはずの李氏朝鮮国が抵抗、朝鮮に攻め込みます(文禄の役)が、最終的には苦戦を強いられいったん和睦・撤退します。しかし5年後の慶長2年(1597)には交渉のこじれから再出兵、これが「慶長の役」です。翌年病没した秀吉にとっては最後の戦となりました。



秀吉の本陣「肥前名護屋城跡」(佐賀県唐津市)

解答… (3)

問題42

家康公は儒学者の藤原惺窩から治世を学びます。この際に用いられた、帝王学の教科書とも言われる唐代の書物は何でしょうか？

- (1) 吾妻鏡 (2) 漢書地理誌
(3) 群書治要 (4) 貞観政要

解説

『貞観政要』は唐の太宗と家臣の問答をまとめた言行録です。「貞観」は太宗の在位中の年号、「政要」は「政治の要諦」を意味します。太宗は敵の侵略をよく防衛し、国力を高め生活を向上させ、また優秀な家臣を多く雇い入れ、諫言にも耳を傾けるといふ、中国史に残る名君でした。「貞観の治」と呼ばれた理想的な政治は、国や時代を問わず多くの為政者が模範とするものであったため、家康公はこれを教科書として政治のあり方を学んだのです。



唐太宗李世民(台北故宮博物院所蔵)

解答… (4)

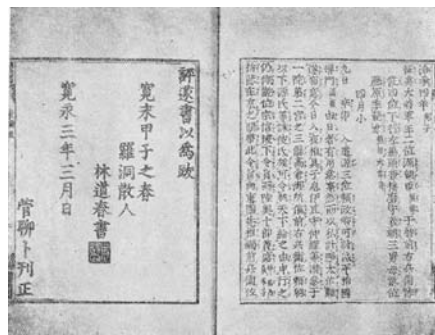
問題43

家康公は鎌倉幕府公式の歴史書を愛読書としており、山科言経から講義を受け、武家政治を学びました。この歴史書とは何でしょうか？

- (1) 吾妻鏡 (2) 漢書地理誌
(3) 群書治要 (4) 貞観政要

解説

治承4年(1180)、専横を極める平氏に対し、以仁王や源頼政が挙兵したところから始まり、皇族出身で初めて征夷大將軍となった宗尊親王が京に送還されるまでを記した『吾妻鏡』は、関連史料を集めた鎌倉幕府公式の歴史書です。執権となった北条氏による出版物であることや、不明確な史料もあり、そのまま用いることは注意が必要ですが、鎌倉時代の政治形態を学ぶためには重要な書物であり、家康公も愛読し学びました。



『吾妻鏡』古活字本(寛永版)。林道春(羅山)の序文が記される。

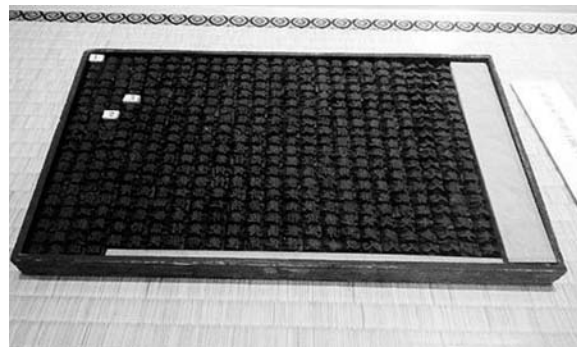
問題44

慶長2年(1599)、家康公が手がけた日本初の本格的な木版活字出版を何というのでしょうか？

- (1) 江戸版 (2) 駿河版
(3) 伏見版 (4) 三河版

解説

関ヶ原の戦いの前年、家康公は伏見において、上野足利学校第9代学頭の三原元侁(閑室)に命じて、『孔子家語』『六韜』『三略』を木活字で印刷させます。この時10万本もの木活字を与えたとわれ、後には『貞観政要』や『吾妻鏡』なども出版されています。秀吉の死後、豊臣家中が騒がしくなっている最中に出版を命じていることから、家康公の学問に対する興味関心の高さと同時に、新しい時代の秩序の在り方を追求していた様子がうかがえます。



現存する木版活字(圓光寺藏/京都市左京区)

問題45

秀吉没後の五大老・五奉行の合議制の下、豊臣内
部のいろいろな対立が表面化します。家康公は、
上洛に応じない五大老のひとりをして征伐するため会
津に出兵をしますが、相手は誰でしょうか？

- (1) 上杉景勝 (2) 宇喜多秀家
(3) 伊達政宗 (4) 前田利長

解説

秀吉の死後、すぐに豊臣家の反家康派が
家康公の排除に向けて動き出します。一方、
家康公も五大老筆頭として家中の信望を集めます。
対立が深まる中、家康公の元に越後国主の堀 秀治
から、会津の上杉景勝に謀反の兆しあることを告げ
る書状が届きます。景勝に上洛を要求する家康公で
したが、これを拒んだ景勝は家臣の直江
兼続に書状を送らせます。これが「直江
状」です。家康公に対する失礼極まりない文面・内容に怒っ
た家康公は、上杉家
征伐のため会津に出
兵したのです。



直江兼続像(上杉博物館蔵／米沢市)

解答… (1)

問題46

会津征伐のため、家康公らが江戸城を出た頃、石
田三成ら反家康派は、鳥居元忠ら家康公の家臣が
守る城を攻め落とします。何という城でしょう
か？

- (1) 大津城 (2) 二条城
(3) 伏見城 (4) 淀城

解説

家康公の目が東へ向いた隙に、石田三成
らが畿内を押さえようと挙兵し、4万の兵
で伏見城を囲みます。対して、守る鳥居元忠の軍は
1800ほど。20倍もの敵兵によく耐え、10日間以上も
持ちこたえました。しかし守備兵の内応もあってつ
いに力尽き、討死してしまいます。元忠の決死の覚
悟は「三河武士の鑑」と称えられ、また伏見城におけ
る壮絶な戦いで血に染まった床板は、京都「養源院」
や「正伝寺」はじめいくつかの寺院の天井板に使われ、
「血天井」として現在に伝
わっています。



伏見城遺物「血天井」(正伝寺／京都市上京区)

解答… (3)

問題47

石田三成いしだ さんせいの拳兵けんべいを聞き、家康公けいこうこうらは下野国しもつけのくに 小山おやまで会議を開きます。「家康公に味方し、三成を討つ」と最初に発言し、東軍とうぐんをまとめるきっかけをつくった豊臣恩顧とよとみのおんこの武将ぶしやうは誰でしょうか？

- (1) 加藤清正かとうきよまさ (2) 小早川秀秋こばやかわひであき
 (3) 蜂須賀家政はちすけ かいえまさ (4) 福島正則ふくしままさのり

解説

石田三成いしだ さんせいや、三成に呼応した大谷吉継おおたによしつぐの不穏な動きを知りつつも会津に向けて出兵した家康公の元に、石田勢の伏見城攻撃を伝える使者が到着しました。そこで諸将を集め、方針を話し合ったのが小山評定おやまひょうじやうです。妻子が人質に取られていること等もあり対応に苦慮する武将達の前で、福島正則が口火を切り家康公に味方すると宣言します。そして山内一豊やまのうちかずとよら東海道の諸大名が城の提供を申し出たため、多くの豊臣大名を伴い畿内に引き返し石田方と戦う状況が整ったのでした。



福島正則像(東京国立博物館蔵)

解答… (4)

問題48

会津征伐を中止し引き返した東軍は、美濃国みののくに 関ヶ原せきがはらで三成ら西軍せいぐんを破ります。天下分け目の戦いと言われる「関ヶ原の合戦」は、何日で決着したでしょうか？

- (1) 一日 (2) 三日間
 (3) 一週間 (4) 一ヶ月

解説

尾張辺りあたいげきで迎撃する計画を立てていた三成でしたが計画は頓挫し、美濃を中心せんとに前哨戦が行われます。岐阜城を守る織田秀信おだひでゆき(信忠遺児・三法師)を打ち破るなど、東軍は有利に戦況を進めます。本戦では兵力や軍の配置に勝る西軍が当初優勢に戦いを進めますが、家康公は事前工作で多くの西軍の武将の内応を取り付けていました。大軍を率いる小早川秀秋の東軍参加をきっかけに、形勢は一気に東軍に傾き、大戦にも関わらずわずか一日で勝敗が決しました。



笹尾山石田三成陣跡(岐阜県関ヶ原町)

解答… (1)

問題49

「関ヶ原の合戦」の翌年、家康公は流通の円滑化のために、東海道を皮切りに五街道の整備を行います。該当しないのはどれでしょうか？

- (1) 旅の目安となるよう、一里(約4km)ごとに目印の塚を設置した
- (2) 人や物資の移動のため、街道に宿場を設け、乗り継ぎ用の馬を用意した
- (3) 旅人を日差しや風雨から守り、街道の目印ともなる松や杉などを植えた
- (4) 大雨、増水などで川止めにならないよう、すべての川に橋を架けた

解説

街道の整備を行うことで、人や物の往来がスムーズになり、流通が円滑になることで庶民の生活は向上しますが、同時に敵が軍隊を率いて行軍することも容易となってしまいます。そこで、大きな川にはあえて橋を架けず、船や徒歩での渡河が行われました。また、東海道の尾張宮宿から伊勢桑名宿までは海上を渡し船で移動するルートで、「七里の渡し」と呼ばれました。この方針は江戸期を通して引き継がれ、特に渡河の難所となった大井川は「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川」とその困難さを詠われました。



「七里の渡し」公園
(名古屋市熱田区)

問題50

慶長8年(1603)、征夷大將軍に任じられた家康公は、豊臣家との良好な関係を築くために何をしましたでしょうか？

- (1) 豊臣秀頼を父 秀吉と同じ関白に推薦した
- (2) 孫娘の千姫を豊臣秀頼に嫁がせた
- (3) 秀頼の母 茶々のために淀城を新築した
- (4) 秀吉の正室の北政所(高台院)に正二位の官位を贈った

解説

千姫が秀頼の許へ嫁ぐことは秀吉の遺言であったといわれますが、千姫が産まれたのは、秀吉が死去する前年のことです。婚姻などを考えるような年齢ではありません。豊臣政権下で最も実力を持っており、同時に秀吉亡き後、天下を狙える器を持った家康公と血縁関係を持つことで嫡男秀頼を託したいという、哀願にも似た親心だったのででしょうか。家康公も秀吉の遺志に応え、両者は婚姻を結びました。二人の間に子供は出来ませんが、仲睦まじい夫婦となりました。



千姫絵姿(弘経寺蔵/茨城県常総市)

問題51

秀吉の朝鮮出兵後、朝鮮国とは関係が断絶されていましたが、家康公は朝鮮の使節と会談し、和議を結びます。2年後には朝鮮から日本へ最初の朝鮮通信使が派遣されました。家康公と会談し、日本と朝鮮の懸け橋となった朝鮮の使節は誰でしょうか？

- (1) 光海君(王子) (2) 松雲大師(僧)
 (3) 李舜臣(将軍) (4) 柳成龍(宰相)

解説

秀吉死後、朝鮮からの即時全面撤退を主導した家康公は、朝鮮との停戦の為、松雲大師と会談を行います。松雲大師は本名を惟政とい、文禄・慶長の役の際には義僧兵の指揮官として日本軍と戦ったこともあり、家康公と会見し、平和思想に同調した松雲大師との間で和議が成立。朝鮮人捕虜の帰国も実現しました。



松雲大師像
 (月精寺蔵／韓国江原道平昌郡)

解答… (2)

問題52

将軍となった家康公は、僅か2年で将軍職を譲ってしまいます。第二代の将軍となった家康公の三男は誰でしょうか？

- (1) 家綱 (2) 忠吉
 (3) 信康 (4) 秀忠

解説

嫡男であった信康は切腹、二男の秀康も小牧・長久手の戦いの講和条件で秀吉に養子として出されて徳川家を離れています。残った男子の中で最も年長だったのが三男 秀忠です。関ヶ原の戦いの際には上田城にこもる真田勢にあしらわれるなど、戦場での功績は少なく、また周囲からも戦下手は認識されていました。しかし、家康公は、これからは平和になるため、武勇よりも政治に秀でた人物こそが次代の将軍にふさわしいとして、秀忠を指名したのでした。



徳川秀忠像(松平西福寺蔵／東京都台東区)

解答… (4)

問題53

慶長12年(1607)、駿府城に移った家康公は、江戸の将軍と役割を分担し、泰平国家への仕組みづくりを始めます。駿府城で家康公の行った政治は何と呼ばれるのでしょうか？

- (1) 院政 (2) 大御所政治
(3) 執権政治 (4) 摂関政治

解説

秀忠の妻 於江が遺した書状には家康公を「大御所」と呼んでいるものがあります。大御所という呼称は幕府により公式に認められたものです。江戸城を秀忠に譲り、駿府へ移り住んだ家康公は、東国の行政を秀忠に任せると同時に、未だに火種の燻る西国の政治を執り行いました。この頃に家康公に仕えていた家臣は、武士ばかりではなく、崇伝や天海などの僧侶、ウィリアム・アダムスやヤン・ヨーステンなどの外国人といった、多様な経歴を持つ人材でした。



大御所時代の家康公像(駿府城公園/静岡市)

問題54

朱子学を奨励し、文治国家を目指す家康公は、金地院崇伝や林 羅山に命じ、日本初の銅活字出版を行います。これを何と称するのでしょうか？

- (1) 江戸版 (2) 駿河版
(3) 伏見版 (4) 三河版

解説

朝鮮出兵時の戦利品として日本にもたらされた銅活字を参考に、家康公は国産銅活字の生産を命じます。この銅活字によって印刷された『大蔵一覽集』『群書治要』を「駿河版」と言います。この二点を印刷する為に作成された活字は十万点を越えます。完成を待たずして家康公はこの世を去ってしまったため、その後は紀伊徳川家の所有となりますが、火災で大部分を消失してしまいました。残っている銅活字は、現在、凸版印刷株式会社(東京都)が所有しており、重要文化財に指定されています。



群書治要「駿河版」(国重文/凸版印刷株式会社蔵)

問題55

豊臣家が製作した大仏殿の梵鐘に刻まれた「国家
 安康 君臣豊楽」の文字が、家康公を呪詛し、豊臣
 の世を望むものと解釈された鐘銘事件から「大坂
 冬の陣」が引き起こされます。この鐘が設置され
 たのは何という寺社だったのでしょうか？

- (1) 延暦寺 (2) 東大寺
 (3) 方広寺 (4) 豊国神社

解説

徳川家に征夷大將軍が継承され、豊臣家
 との主従逆転が歴然としたことから、両家
 の対立は深まり始め、それを決定的なものにしたの
 が方広寺鐘銘事件でした。豊臣家を滅ぼすために幕
 府側が難癖を付けたと解釈されがちですが、貴人の
 諱を記すことは当時の常識では非難を受けて当然の
 悪しき行いでした。この鐘は現在も方広寺に残され
 ており、「国家
 安康 君臣豊楽」
 の文字も読むこ
 とが出来ます。



方広寺の梵鐘(京都市東山区)

解答… (3)

問題56

慶長19年(1614)の「大坂冬の陣」の和睦交渉を担っ
 たのは女性たちでした。大坂方の使者は、豊臣秀
 頼の乳母 大蔵卿局と茶々(淀殿)の妹である常高
 院。常高院とは徳川二代將軍の正室 於江の姉で、
 浅井三姉妹の次女 於初のことです。では、徳川
 方の使者を務めた家康公の側室とは誰だったで
 しょうか？

- (1) 阿茶局 (2) 於梶の方
 (3) 於茶阿の方 (4) 西郷局

解説

武田家臣 飯田直政の娘で、今川家臣の
 妻となっていた女性が、夫亡き後、家康公
 に仕えます。この女性が阿茶局です。阿茶局は側室
 でありながら、その才覚
 を大いに評価されて大奥
 の取りまとめ役も務めま
 した。大坂の陣での和睦
 交渉担当や、後に秀忠の
 娘の和子(東福門院)入内
 に際して母代わりをつと
 めるなど、多岐に亘る分
 野で活躍し、後水尾天皇
 から従一位を贈られまし
 た。



雲光院(阿茶局)像(徳川記念財団蔵)

解答… (1)

問題57

慶長20年(1615)、「大坂夏の陣」で豊臣家を滅ぼした家康公は、元号を元和に改め、「元和偃武」を宣言します。これはどういう意味でしょうか？

- (1) 武力で平和を実現するという宣言
- (2) 武器を収めて平和が始まったという宣言
- (3) 武器を持った浪人たちを滅ぼすという宣言
- (4) 武士による政治社会実現の宣言

解説

「偃武」とは「武器を偃(ふ)せる」という意味です。豊臣家の滅亡により、徳川幕府に敵対する勢力は無くなりました。これにより、武器を必要としない平和な時代が到来したのだと宣言したのです。三代将軍 家光の時代には島原の乱が、四代 家綱の就任直後には由井正雪の乱が起きましたが、幕府が揺らぐほどのものにはなりませんでした。パクス・トクガワナーの始まりは、この元和偃武の宣言からだと言えるでしょう。



大坂夏の陣屏風より「乱取りの様子」(大阪城博物館蔵)
戦国の終焉、元和偃武を宣言

問題58

天下分け目の関ヶ原から、家康公は何年かけて元和偃武にたどり着いたのでしょうか？

- (1) 2年
- (2) 5年
- (3) 10年
- (4) 15年

解説

慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いで豊臣家の実権を掌握した家康公は、3年後の慶長8年(1603)に征夷大將軍に就任し、徳川の政治を行います。そして慶長20年(1615)に大坂夏の陣で豊臣家が滅亡し元和偃武。この間、実に15年。戦国時代の締めくくりを迎えるに当たって、非常に長い年月を費やしています。最後の最後まで慎重に幕府の体制を整えることに力を注いだ家康公の姿勢が、250年もの長きに亘る平和な時代を造り上げたのです。



家康公大坂の陣に出陣の様子(東照社縁起絵巻より/日光東照宮蔵)

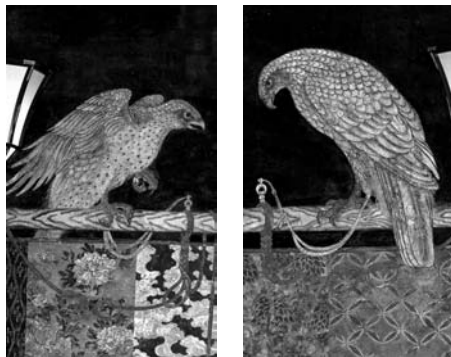
問題59

家康公は75年の生涯しゅうがいのをかけて、戦国乱世から泰平社会への時代の大転換だいてんかんを成し遂げました。応仁の乱より大坂の陣の終結まで、戦国時代は約何年間続いたのでしょうか

- (1) 50年 (2) 100年
(3) 150年 (4) 200年

解説

応仁元年(1467)、足利将軍家や有力大名家の継嗣争いに幕府の権力争いが加わって応仁の乱が勃発します。京都の大半を灰燼と化すなど甚大な被害を与えたこの戦いは次第に地方に波及し、戦国時代が幕を開けます。そこから75年後の天文11年(1542)に戦国時代を終焉させる家康公誕生。75年かけて荒廃していった日本が、家康公の75年の生涯で再び平和な時代を迎えることが出来たのです。



「ふるさと岡崎に帰る象徴の鷹図」
(薨去400年祭「家康公シアター」/伊賀八幡宮蔵)

解答… (3)

問題60

元和2年(1616)3月、家康公は朝廷から太政大臣に任ぜられましたが、これは、武家としては過去3人(平氏：平清盛、源氏：○○○○、豊臣氏：豊臣秀吉)だけのことでした。家康公の前に、源氏で太政大臣に任じられていたのは誰でしょうか？

- (1) 源 義家 (2) 源 頼朝
(3) 源(足利) 尊氏 (4) 源(足利) 義満

解説

後醍醐天皇による建武の新政の崩壊によって、新たな朝廷の体制を望んだ足利尊氏らが擁立した北朝と、天皇親政を理想とする後醍醐天皇が新たに吉野に開いた南朝を統一したのが足利義満です。室町幕府の権勢を大いに高め、公武一体を推し進めた義満は、武士としての最高位である征夷大將軍と、公家としての最高位である太政大臣に共に就任しました。金閣寺の造営で有名な義満ですが、その比類なき優美さのように華やかな人生を送りました。義満は足利家ゆかりの岡崎にも天恩寺を建立しています。



天恩寺「仏堂」[山門] (国重文/岡崎市)
足利尊氏の発願により義満が建立。

解答… (4)

問題61

元和2年(1616)4月17日、家康公は駿府城で薨去し、遺言により久能山に埋葬されました。同じく遺言により、位牌はどこに置かれたでしょうか？

- (1) 江戸 寛永寺 (2) 江戸 増上寺
(3) 岡崎 大樹寺 (4) 京都 知恩院

解説

「位牌は三河大樹寺へ」という家康公の遺言に従って大樹寺へ送られた位牌は、家康公の身長とほぼ同じ高さであると伝えられます。その後も代々の将軍の位牌が大樹寺へ収められました(十五代将軍 慶喜は神道であったため位牌はありません)。また、尾張徳川家初代の義直より寄贈された松平初代 親氏以降代々の位牌も安置されています。さらに三代将軍 家光の計らいによるものでしょうか、二代将軍 秀忠と正室 崇源院(江姫)夫妻の位牌も安置されています。大樹寺は幕府より格別の厚遇を受けました。



歴代将軍の位牌(大樹寺位牌堂/岡崎市)
歴代将軍の身長が位牌の高さと伝えられる

解答… (3)

問題62

一周忌を過ぎ、東照大権現の神号を受けた家康公は、北極星(天帝)を背に江戸を望む方位に位置する関東の霊場、日光山に祀られ、平和日本のための国家鎮護の神となりました。日光山に祀られたのは誰の意志だったのでしょうか？

- (1) 家康公本人 (2) 朝廷
(3) 徳川家臣団 (4) 徳川二代将軍

解説

家康公は遺言で、「遺骸は久能山に葬り、一周忌を過ぎたら日光山に小さな祠を建ててそこに祀るように。八州の鎮守になろう」という言葉を残していました(「本光国師日記」)。「日光山」というのは、もともと現在の栃木県日光市にある輪王寺の山号です。中世の初期(平安時代の初めころ)、勝道上人が開いた日光の山岳群(日光三山「男体山」「女峰山」「太郎山」)の内、特にその主峰である男体山を信仰対象とする、「山岳信仰の御神体および修験道の最大の霊場」でもありました。慶長18年(1613)、家康公は天海に日光山の住職(貫主)を命じています。薨去3年前のことです。



家康公墓(久能山東照宮)

解答… (1)

問題63

江戸平和社会の仕組みの一つである「武家諸法度」には、その最初に武士としての心得が記されています。「○○○○ノ道、専ラ相嗜ムベキ事」。

○○○○に当てはまる言葉はどれでしょうか？

- (1) 武芸鍛錬 (2) 武芸馬術
(3) 文武学問 (4) 文武弓馬

解説

武家諸法度の最初の項には「文武弓馬ノ道、専ラ相嗜ムベキ事」と記されています。ここで考えなければならないことは、冒頭の部分で「文武弓馬」とあることでしょう。学問と武芸を両方嗜みなさいと言っているのです。戦乱の世は武士は戦で功を上げることが第一としていましたから、大きな考え方の変化です。平和な時代での武士たちの新しい秩序を創ろうと考えたのです。



武家諸法度(南禅寺金地院蔵/京都市左京区)

問題64

家康公は日本古来の天皇制と武家政権がどのような関わりを持つことで、平和社会のカタチを創造できるのか、「禁中並公家諸法度」に表したと言えます。その第一条、天皇の文化的な活動の中で何を第一にしていたかといふことを記しているのでしょうか？

- (1) 官位の授与 (2) 学問
(3) 宗教 (4) 政治

解説

天皇家は日本古来の「有職故実」(朝廷や公家、武家の昔からの行事や法令・儀式・制度・官職・風俗・習慣の先例などを研究する学問のこと)を特に研究していただきたい、という趣旨が「禁中並公家諸法度」の第一項に述べられています。これらは日本の伝統文化を継承する上で非常に大切な学問とされ、「政治のことは武家に任せていただきたい」という、現代に通じる考え方が表されています。



禁中並公家諸法度(国立国会図書館史料)

問題65

家康公の命で、現代の象徴天皇制にもつながる「禁中並公家諸法度」の起草をした南禅寺の高僧は誰でしょうか？

- (1) 金地院崇伝 (2) 西笑承兌
(3) 太原雪斎 (4) 南光坊天海

解説

金地院崇伝は京都五山 南禅寺の高僧で、家康のもと幕府の法律の立案・外交・宗教統制を一手に引き受け、その権勢から「黒衣の宰相」の異名を取った僧です。禁中並公家諸法度や武家諸法度の作成を始め、幕府の安定が平和社会の持続につながると考え、開幕時の政治に強い影響を与え続けました。金地院というのは南禅寺の塔頭であり、そこに住したので金地院崇伝と呼ばれていますが、本来は「以心崇伝」といいます。家康公薨去後の神号については、当初、西笑承兌の提案した「大明神」を推していましたが、天海の提唱した「大権現」を採用しました。



以心(金地院)崇伝像
(南禅寺金地院蔵/京都市左京区)

解答… (1)

問題66

江戸の人々の暮らしに「豊かさ」をもたらしたものの一つに、治水事業がありました。特に、江戸湾に注いでいた利根川を太平洋に流れるよう大規模な土木工事をを行い、湿地帯だった江戸の開発に大きな貢献をし、現在でも各地で顕彰されている三河武士は誰でしょうか。

- (1) 伊奈忠次 (2) 大久保長安
(3) 土井利勝 (4) 松平家忠

解説

伊奈忠次は現在の西尾市出身の武士です。矢作川と矢作古川が分岐する辺りの小島城に生まれました。家康公の検地政策や街道整備などに中心的な役割を担い、さらに利根川を中心とする関東の治水事業や新田開発に大きな足跡を残しています。水戸市では、忠次が造った灌漑用水「備前掘」の恩恵が現代にも及んでいることを顕彰し、銅像が建てられています。「備前掘」の名称は忠次の名が伊奈備前守だったことに由来し、岡崎城でも、忠次の居住した曲輪を「備前曲輪」と呼んでいます。



伊奈忠次像(水戸市)利根川の治水を指導した最大の功労者である。

解答… (1)

問題67

江戸を中心に整備された東海道などの「五街道」の起点となったのはどこだったのでしょうか？

- (1) 江戸城大手門 (2) 金座・銀座
(3) 品川宿 (4) 日本橋

解説

家康公が江戸開幕当初から手がけたのは、人が安心して往来でき、物が正常に流通するための街道整備でした。特に発展する江戸を支えるために、全国から物産が集まる仕組みとして、日本橋を起点とする「五街道」を整備したのです。そのため日本橋には大規模な問屋が軒を並べる「大伝馬町」をはじめ「中伝馬町」「小伝馬町」が造営され、現在の浜松市出身の馬込勘解由という武士が、それらを統括していました。大伝馬町には主に商業の発達していた関西、伊勢、近江方面からの物流が多かったため、それらの地域の大手ができたのです。



大伝馬町
(歌川広重／「名所江戸百景」より)

問題68

次の街道の中で、「五街道」に入らないのはどれでしょうか？

- (1) 奥州街道 (2) 甲州街道
(3) 中山道 (4) 山陽道

解説

「五街道」というのは、「東海道」「中山道」「甲州街道」「日光街道」「奥州街道」をさしています。それぞれの街道にはおよそ3～4里毎に宿場が整備され、馬と人足が用意されていました。これは人がだいたい半日で移動できる距離であり、人馬もそれぞれの宿場で交代して乗り継いでいくような仕組みになっていました。これを「人馬の継立」といい、慶長4年(1601)には家康公により「宿駅伝馬制度」として確立したのです。東海道は53の宿場が(53次)、中山道は69、甲州街道は43、日光街道は21、奥州街道は27(白河までの)宿場町がありました。



「人馬の継立」石のモニュメント
(岡崎宿伝馬歴史プロムナード)

問題69

家康公は幼少時代から本に親しんでいたと伝わりますが、秀吉による朝鮮出兵の頃から家臣たちにも本を読ませるようにしていました。それらの本は木版印刷によるもので、家康公が創建した寺社で印刷事業が行われました。そこは何という寺社でしょうか？

- (1) 圓光寺 (2) 寛永寺
(3) 銀閣寺 (4) 南禅寺

解説

圓光寺は家康公により慶長6年(1601)、足利学校の学頭であった三要素元佑を招いて伏見学校の一角に建立されました。その後、慶長17年(1612)に京都相国寺山内に移転し、寛文7年(1667)には現在の京都市左京区一乗寺に移されています。圓光寺は学校の役割も果たし、家康から与えられた木製活字を用いて、『吾妻鏡』や『周易』などの書物を刊行しました。そのとき使用された日本最古の木製活字(5万個余、国重文)が保存されています。



圓光寺(京都市左京区一乗寺)

問題70

江戸庶民の楽しみの一つに、教養・趣味・娯楽など様々な分野の読書がありました。特に現代の漫画につながる娯楽本は何と呼ばれていたのでしょうか？

- (1) 浮世絵 (2) 漢籍
(3) 草双紙 (4) 地本

解説

江戸時代の初期には家康公によって銅製活字による「群書治要」などの漢籍や、後には「日本書紀」「吾妻鑑」などの史書が印刷、出版されました。これらは流通することはありませんでしたが、次第に庶民の間でも教養としての読書が広まるようになり、版木1枚に文字をまとめて刻む木版本が出回ります。当初は仏典や四書、また「伊勢物語」などといった和漢の古典を出版していましたが、やがて仮名草子や草双紙といった通俗的な内容のものが浮世絵と共に出版されるようになりました。本屋の店頭には実に多くの本が並べられていたのです。



浮世絵「昔語岡崎猫石妖怪」(歌川三代目豊国) 草双紙、浮世絵などが店頭に並んだ。

問題71

江戸時代、泰平日本を守るための幕府の対外政策として、海外への窓口は四つに限定されていました。それはどこでしょうか？

- (1) 長崎・対馬・横浜・蝦夷
- (2) 長崎・対馬・神戸・浦賀
- (3) 長崎・薩摩・平戸・蝦夷
- (4) 長崎・対馬・薩摩・蝦夷

解説

「長崎口」はオランダと中国に対して。長崎は幕府の直轄地として幕府の管理で貿易が行われました。オランダの「カピタン＝商館長」を通じ世界の情勢を知る手掛かりとし、西洋の学問も「蘭学」として広まりました。「対馬口」は李氏朝鮮国に対して。対馬藩の宗氏は中世から対朝鮮の外交、貿易の中継ぎを担ってきました。12回に及んだ「朝鮮通信使」は家康公の対朝鮮外交の成果として顕彰されています。「薩摩口」は琉球王国に対する窓口。薩摩藩が琉球王国を支配したことで、琉球を通じての貿易が認められました。

「蝦夷口」は蝦夷地のアイヌに対する窓口。家康公は松前藩の松前氏に蝦夷地との交易を独占的に認めました。



長崎出島資料館(長崎市)

問題72

家康公の外交顧問として活躍したウィリアム・アダムスとヤン・ヨーステン。家康公が二人を初めて引見し、話を聞いたのはいつだったのでしょうか？

- (1) 関ヶ原の合戦が起こる年
- (2) 家康公が江戸に幕府を開いた年
- (3) 大坂冬の陣が始まる年
- (4) 大坂夏の陣が終わった年

解説

関ヶ原の合戦が起きたのが慶長5年の9月、この年の3月に豊後国臼杵(大分県臼杵市)の海岸にオランダ船リーフデ号が漂着しました。少数の生存者の中に、船長クワケルナック、高級船員ヤン・ヨーステン、イギリス人航海士のウィリアム・アダムスらがいました。彼らは処刑されることを、家康公の命で大坂に召し出され、その知識により重用されることになったのです。ヤン・ヨーステンは朱印状を与えられ貿易に活躍、江戸に与えられた地は彼の名をとって八重洲と呼ばれます。アダムスは家康公に信任され、外交顧問としても活躍しました。与えられた知行地と水先案内人の意味で「三浦按針」と称されたのです。

リーフデ号絵図
(東京国立博物館蔵)

問題73

江戸時代には、平和で安定した社会から生み出された様々な文化が発達しました。園芸文化もそのひとつで、新築された江戸城に家康公が入城する際、徳川家の繁栄を願って、ある三河武士が常緑の植物を献上し喜ばれたことから、後に武士たちの間で流行した植物は何でしょうか？

- (1) アロエ (2) 万年青
(3) サボテン (4) 蘇鉄

解説

万年青と書いて「おもと」と読みます。文字どおり常に青々とした緑の葉を保っている植物で、強健な性質から縁起の良い植物とされ、家康公の江戸城への引っ越しの際に、家臣の長嶋長兵衛が「天福の霊草」として三鉢を献上し喜ばれ、平和な社会が実現したことから、江戸中期には武士たちを中心に大流行したようです。引っ越しの際、他の荷物に先立って万年青を運び込むと運が開けるといい、現代でも「引っ越し万年青」として珍重されています。



万年青
〔銘・玉楼〕／岡崎市羽根町「宝生園」

問題74

小さな漁村に過ぎなかった江戸の町を、計画的に大都市へと変えていったのは、家康公を支えてきた三河武士たちの活躍がありました。江戸町奉行として町づくりを主導し、家康公から広大な屋敷地を拝領、その地域が現在の地名にもなっている武士は誰でしょうか？

- (1) 青山忠成 (2) 大久保忠隣
(3) 織田有楽斎 (4) 服部正成

解説

江戸に入った家康公は、最初に町割りと城の拡充に着手しました。江戸湾から城への水路を開き、開削した揚土で日比谷の入江を埋め立てたのです。城の周囲には家臣団の屋敷を配置しましたが、特に江戸町奉行であった青山忠成や、内藤清成は広大な土地を得ました。東京の「青山」「内藤新宿」の地名として残されていますが、彼らのふるさとは岡崎であったことを忘れてはいけません。



青山氏の屋敷跡「都立青山霊園」(港区南青山)

問題75

江戸に集中した様々な物産の中で、特に味噌や酒などの醸造関係を取り扱う業者に多かった屋号は何でしょうか？

- (1) 越後屋 (2) 尾張屋
(3) 三河屋 (4) 武蔵屋

解説

江戸時代も元禄期に入ると、全国から様々な種類の物産が集まるようになりました。江戸の商人たちは取り扱う商品によって「十組問屋」をつくり、専門店として庶民の生活に溶け込んでいったのです。その中で特に「醸造品(酒、味噌、醤油、酢など)」は三河で生産された物が多く、取り扱う商店の多くが「三河屋」という屋号を付けたようです。現在でも三河地方は「豆味噌」はじめ醸造品の生産が盛んに行われています。漫画「サザエさん」に登場する酒屋さんも「三河屋」さんですね。



煮売り酒屋の繁盛(「江戸庶民風俗図絵」より)
酒屋はつまみになる一品料理も提供した

解答… (3)

問題76

江戸では岡崎を中心とした三河地方の産物も好まれました。次の中で、あてはまらないものはなんのでしょうか？

- (1) 石灯笼 (2) 下駄
(3) 味噌 (4) 木綿

解説

三河地方、特に岡崎では現代でも特産品となっている産物がいくつかあります。石製品、八丁味噌、三河木綿などが有名ですが、これらは江戸の町でも好まれていました。石製品では特に「石灯笼」が有名で、庭に置くことが一種のステータスになっていたようです。また八丁味噌は家康公の江戸入りのころから「豆味噌」として好まれ、江戸後期から近代まで一つのブランドとして取り扱われたのでしょう。三河木綿は普段着用の「縞木綿」のほか、法被や帆前掛け、帯芯として使用された「白木綿」が大量に取引されたと伝わります。



三河白木綿の「帯芯」

解答… (2)

問題77

家康公が三河の鉄砲隊の火薬の平和利用として製造を許したと伝わる「三河花火」は、どの流派の「火術」をもとにしたものだったのでしょうか？

- (1) 一光流 (2) 稲富流
(3) 真陰流 (4) 新富流

解説

「家康公は、早くより火薬の威力を利用し、三河の青年武士からなる鉄砲隊を編成するとともに、細川家を追放された稲富流砲術師範稲富伊賀守直家を召し抱えて、鉄砲鍛冶の指導にあたらせました。さらに津田流砲術の根来衆を加えますます鉄砲・火術の拡充をはかり、より強大にしていってのです」(「三河花火史」より)

家康公は慶長12年(1607)の鉄砲製造制限に伴い、火薬の製造やその原料となる硝石の採取を、ふるさどである三河のみに限定させたのでした。その火術が「お国もの」としての三河花火に発展したので



鉄砲隊の模擬射撃(家康行列/岡崎市)
三河花火の原点。

解答… (2)

問題78

東海道を通行する大名や旅人たちに、岡崎宿の名物として特に人気が高かったと伝わる食べ物は何でしょうか？

- (1) 淡雪豆腐 (2) 一色うなぎ
(3) 八丁味噌まんじゅう (4) むらさき麦うどん

解説

江戸時代の岡崎名物の食べ物といえば「淡雪豆腐」が挙げられます。当時、岡崎宿の東の入り口付近にあった「あわ雪茶屋」で出されていたのは、葛や山芋をベースに、醤油味のあんをかけた「あんかけ豆腐」で、岡崎宿を通行する旅人に親しまれていたと伝えられます。天保13年(1842)の記録に「茶碗壱膳、あハ雪豆ふ・香之物付貳拾文、引下ケ拾八文」とあり、ご飯、おしんこ、淡雪豆腐のセットメニューで十八文(現代のお金でおおよそ400~500円程か)であった様子が分かります。現在では淡雪豆腐を模したお菓子が製造され親しまれています。



「あわ雪茶屋」石のモニュメント
(岡崎宿伝馬歴史プロムナード)

解答… (1)

問題79

家康公の天下平定の過程で、三河武士たちは関東だけでなく全国に広がり、現在につながる町づくりを進めました。その中で、千葉県大多喜や三重県桑名の城下町づくりの基礎を築いた徳川四天王のひとり是谁でしょうか？

- (1) 井伊直政 (2) 酒井忠次
(3) 榊原康政 (4) 本多忠勝

解説

本多忠勝は家康公の関東移封時に、下総国大多喜(千葉県大多喜町)に10万石で配されます。豊臣秀吉の命により、忠勝、榊原康政、井伊直政の三人は10万石以上で入封させたと伝えられています。忠勝は関ヶ原の合戦後に桑名に10万石で転封し、揖斐川を利用した水城として桑名城を築城します。城下町の整備も行い、大山田川・町屋川の流れを変えて外堀に利用し町の守りとしました。忠勝の行ったまちづくりを「慶長の町割り」と呼び、現在も生かされています。



本多忠勝による「慶長の町割り」で掘削された水路(三重県桑名市)

問題80

徳川四天王の筆頭 酒井忠次の孫の忠勝が藩主となって以来、江戸時代をとおして酒井家が治めたまちで、作家 藤沢周平の時代小説にたびたび登場する架空の藩、海坂藩のモデルともなった城下町はどこでしょうか？

- (1) 岡崎 (2) 小田原
(3) 館林 (4) 鶴岡

解説

山形県鶴岡市を訪れると、中心部に鶴岡城址があります。隣接して江戸時代に創設された藩校「致道館」があり、その博物館には酒井忠次や酒井家に関する貴重な史料が展示されています。この鶴岡(庄内)藩は江戸時代を通して酒井家が治め続けました。幕末から明治にかけての戊辰戦争では、武士や農民たちが一体となって官軍に勝利した唯一の藩です。この鶴岡城の中に「藤沢周平記念館」があります。映画化もされた藤沢周平の小説「蟬しぐれ」や「たそがれ清兵衛」などに登場する小藩「海坂藩」は、この鶴岡藩がモデルとなっています。



鶴岡藩校「致道館」(山形県鶴岡市)

問題81

関ヶ原の合戦から江戸開府以降、全国に広がった三河武士たちですが、彼らの出生地の多くが岡崎市やその周辺に存在し、石碑なども残されています。その中で、酒井忠次が出生したと伝わる場所はどこでしょうか？

- (1) 井田城(岡崎市) (2) 上野城(豊田市)
 (3) 岡崎城(岡崎市) (4) 吉田城(豊橋市)

解説

岡崎市域には家康公の天下平定を支えた三河武士たちの生誕地が多くあります。徳川四天王の酒井忠次は大永7年(1527)、井田城に生まれました。家康公より15歳も年上ということになります。このため、家康公が人質として駿府にあるときには、岡崎奉行衆の一人として主の留守を守っていました。慶長元年(1597)には京都で没していますので、残念ながら天下人としての家康公を見届けることはできませんでした。大樹寺別院の回向院には忠次の父までの代々の墓があります。



酒井忠次の生誕地「井田城址」
(岡崎市井田町)

解答… (1)

問題82

家康公の関東移封に伴い三河を離れたものの、後に初代岡崎藩主として故郷に戻った武将はどれでしょうか？

- (1) 安藤直次 (2) 板倉勝重
 (3) 本多康重 (4) 水野勝成

解説

本多忠勝で有名な本多家ですが、先祖から分流して四家があると考えられます。本多忠勝の家系(忠勝系)、本多正信の家系(弥八郎系)、本多重次(作左衛門)の家系、そして本多広孝の家系(広孝系)の四家です。関ヶ原合戦後、岡崎藩の立藩時にはこの内、本多広孝の子康重が藩主となりました。康重は岡崎土井郷の生まれで、父の広孝に従って三河平定後は田原城に居住します。そして家康公関東移封時には上野白井の城主となります。初代岡崎藩主となった康重は矢作橋の架橋や岡崎城天守の造営、城下町・宿場町の整備など、数多くの功績を残しました。



本多康重像(忠恩寺蔵/長野県飯山市)

解答… (3)

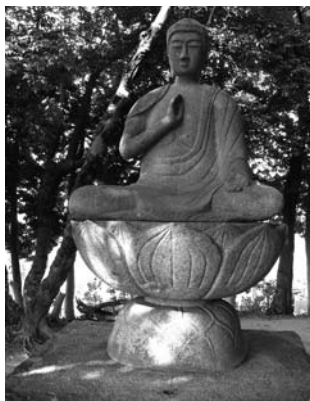
問題83

岡崎には、松平氏や家康公に関わる様々な遺産・史跡が残されています。応仁元年(1467)、尾張品野(瀬戸市)・三河伊保(豊田市)の豪族たちとの井田野合戦に勝利した松平四代親忠は、戦死者のために念仏堂を建て、敵味方の区別無く塚を築き弔いました。後に「千人塚」と呼ばれるこの塚がある寺社はどこでしょうか？

- | | |
|---------|---------|
| (1) 西光寺 | (2) 清見寺 |
| (3) 隨念寺 | (4) 法藏寺 |

解説

親忠は井田野の合戦後、戦死者の霊を弔うために小さな念仏堂を建て、加茂郡叡部の福林寺住持であった勢誉愚底を呼び寄せて七日七晩の念仏を唱えさせたと伝わります。その後、勢誉を開山として大樹寺が創建されますが、井田野の丘に建てられた念仏堂は松平五代長親によって西光寺として創建されました。



大衆塚阿弥陀如来石像
(岡崎市指定文化財／西光寺)

解答… (1)

問題84

前問の寺社には、大樹寺の陣で家康公を守って戦死した多くの僧侶の霊を弔うため、「大衆塚」と「阿弥陀如来石像」も建てられています。この大樹寺の陣で70人力の祖洞和尚は、あるものを振り回して敵を追い払い、それは家康公をお守りした神として今も大樹寺に祀られています。あるものとは何でしょうか？

- | | |
|-----------|-------------|
| (1) 石灯笼 | (2) 朱色の槍 |
| (3) 千手観音像 | (4) 総門のかんぬき |

解説

70人力の祖洞和尚は大樹寺総門の貫木(門)を振り回して、押し寄せた雑兵たちを追い払ったと伝えられます。この貫木を祀ったのが「貫木神」で、今も大樹寺に祀られています。祖洞は後に三方ヶ原合戦後の念仏供養に浜松まで呼ばれ、現在の「遠州大念仏」の基を成した僧としても知られています。



祖洞和尚像
(大樹寺藏／岡崎市鴨田町)

解答… (4)

問題85

家康公の岡崎在城時代に勃発した三河一向一揆。家康公の本陣ともなり、また家康公と一揆側との和議の場所ともなったのはどこでしょうか？

- (1) 岡崎城
 (2) 上和田 浄珠院
 (3) 針崎 勝鬘寺
 (4) 山中八幡宮

解説

寺の絵図によれば、浄珠院はもともとは広い寺地を有していたことが窺えます。応永年中(1394～1428)に教然良頓(松平二代 泰親の長男)により再興され、以来、矢作川流域に進出した松平一門の崇敬を集めたと思われます。寺内には三木松平信孝(家康公の父 広忠の叔父)の墓があり、特に広忠と共にこの寺を訪れていた様子が寺の由緒に書かれています。一向一揆の際は、ここを本陣としていた家康公が太子堂の前で和睦交渉を行ったと言われており、江戸開幕後は20石の御朱印を授けられました。歴代将軍の位牌の安置を認められており、それらが残されています。



浄珠院(岡崎市上和田町)

解答… (2)

問題86

三河一向一揆に翻弄されていた若き家康公。そのとき、名乗っていた名前はなんだったのでしょうか？

- (1) 松平元信
 (2) 松平元康
 (3) 松平家康
 (4) 徳川家康

解説

家康公は織田信長と同盟を結びましたが、当初は今川氏との断絶ができずにいました。これは妻子が駿府に人質として置かれていたことも理由の一つです。しかし、永禄5年(1562)、西郡(蒲郡市)の上ノ郷城を攻め、今川氏真の従兄弟にあたる鵜殿長照の二人の子供を生け捕って人質交換に成功すると、翌年には名を松平元康から松平家康に変えました。これは今川義元の諱を取り払うことで今川家との決別を表したものです。「家」の字は先祖の八幡太郎源義家からつけたものと伝えられています。決意も新たに東三河統一に乗り出したその時、勃発したのが三河一向一揆です。



松平元康石像(JR岡崎駅東) 元康から家康へ、若き日の家康公。

解答… (3)

問題87

東照大権現^{とうしょうだいごんげん}となった家康公^{まつ}をお祀り^{まつ}するため、徳川三代将軍^{いえみつ} 家光^{いえみつ}により岡崎市内^{けいだい}に創建^{ぞうえい}された東照宮^{けいだい}は、源氏ゆかりの寺社の境内^{けいだい}に造営^{ぞうえい}されました。何という寺社^{けいだい}でしょうか？

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| (1) 久能寺 ^{くのうじ} | (2) 瀧山寺 ^{たきさんじ} |
| (3) 天恩寺 ^{てんおんじ} | (4) 鳳来寺 ^{ほうらいじ} |

解説

日光山^{みたま}に家康公^{せんぞ}の御霊^{みたま}を遷座^{せんざ}したのは本人の遺言^{いごん}でもありましたが、日光山^{みたま}そのものが天台密教^{てんたいみつぎょう}の修験道場^{しゆげんどうじょう}であったということで、天海^{てんかい}の力が大きく働いたことは言うまでもありません。岡崎^{おかざき}に東照宮^{とうしょうぐう}を建立^{けんりつ}する際に、天台宗^{てんたいしゅう}である瀧山寺^{たきさんじ}の境内地^{けいんち}が選定^{せんてい}されたのもそのような影響^{えいぎょう}があったのでしょう。瀧山寺^{たきさんじ}の院号^{いんごう}は吉祥院^{きつじょういん}と言いますが、天海^{てんかい}が創建^{けんけん}した江戸上野^{うえの}の寛永寺^{かんえいじ}には、瀧山寺^{たきさんじ}の住職^{しゆしやく}が輪番^{りんぱん}で務めるための部屋^{へい}(吉祥院^{きつじょういん})まで用意^{ようい}されていました(寛永寺^{かんえいじ}絵図^{えず})。因みに、浄土宗^{じやうとしゅう}の大樹寺^{おおいしゆじ}には朱塗り^{しゆぬり}の「御霊^{みたま}屋^や」が建設^{けんせつ}され、家康公^{いえみつ}と歴代将軍^{れきだいしやうぐん}の位牌^{いはい}が安置^{あんじ}されたのです。



瀧山東照宮(瀧山寺境内地)／岡崎市滝町

問題88

江戸時代^{えどじだい}、岡崎城内^{おかざきじやう}に祀^{まつ}られていた岡崎東照宮^{おかざきとうしょうぐう}と本多忠勝^{ほんたうちかた}を祀^{まつ}る映世神社^{えいせいじんじや}が明治^{めいじ}になり合祀^{ごうし}された寺社^{じや}はどこでしょうか？ 現在の家康行列^{いえみつぎやうれつ}はこの寺社の祭礼^{さいらい}に由来^{ゆらい}しています。

- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| (1) 松應寺 ^{しょうおうじ} | (2) 龍城神社 ^{たつき} |
| (3) 六所神社 ^{ろくしょじんじや} | (4) 若宮八幡宮 ^{わかみや} |

解説

岡崎城^{おかざきじやう}の本丸^{ほんまる}には藩祖^{はんそ}の本多忠勝公^{ほんたうちかた}を祭神^{まつりかみ}とする映世神社^{えいせいじんじや}が勧請^{かんじよう}されていました。加えて家康公^{いえみつ}を祀^{まつ}る東照宮^{とうしょうぐう}も三の丸^{さんまる}にあり、藩主^{はんしゆ}を始め多くの武士^{ぶし}や城内^{じやう}に入った庶民^{しよじん}たちが参拝^{さんぱい}をしたと言います。明治^{めいじ}になり、岡崎城^{おかざきじやう}の建物^{けんぶつ}が次々と破却^{はきやく}されていく中で、東照宮^{とうしょうぐう}の家康公^{いえみつ}と映世神社^{えいせいじんじや}の忠勝公^{ちかた}を合祀^{ごうし}し、本丸^{ほんまる}に新たに龍城神社^{たつき}ができたのです。これまで10月18日^{じゅうがつじゅうはちにち}の忠勝公^{ちかた}の命日^{めいじつ}に慣例^{かんれい}として行われていた武者行列^{むしやぎやうれつ}も、伊賀八幡宮^{いげはつぱんぐう}を出発^{しゅつぱつ}し龍城神社^{たつき}まで、家康公^{いえみつ}と忠勝公^{ちかた}を偲^{しの}ぶ行列^{ぎやうれつ}に変わっていききました。現在は、「桜まつり」のメイン事業^{めいんじぎやう}、「家康行列^{いえみつぎやうれつ}」として岡崎の春^{はる}を彩^{いろど}っています。



龍城神社とライトアップされた岡崎城天守閣(岡崎公園)

問題89

岡崎市の花火大会は全国的に有名ですが、もともとは岡崎城内にあったある寺社の厄除けを祈願する神事から始まっています。提灯をつけた鉦船を浮かべ、金魚花火や手筒花火などを打ち上げて奉納していたと伝えられますが、どの寺社の祭礼だったのでしょうか？

- (1) 菅生神社 (2) 龍城神社
(3) 矢作神社 (4) 山中八幡宮

解説

菅生神社は江戸時代の古地図によれば「天王社」と記されています。明治時代までは「菅生天王社」と呼ばれ、津島天王社や吉田天王社と同様、神事として奉納花火を打ち上げていました。京都の八坂神社も八坂天王社であり、奉納花火を打ち上げています。菅生神社では7月19日の「宵宮祭」、20日の「例大祭」で奉納花火の神事がありますが、現在では岡崎市の観光夏祭りの目玉として、8月第1土曜日に「鉦船神事・奉納花火」の祭事が行われています。



菅生神社の奉納手筒花火
(菅生神社／岡崎市康生町)

問題90

岡崎市には、岡崎宿ともうひとつ、東海道37番目の宿場町として栄えた藤川宿がその面影を残しています。藤川宿は美しい藤の花と、松尾芭蕉の句にも詠まれている穀物で有名でした。その穀物とは何でしょうか？

- (1) 赤米 (2) むらさき麦
(3) 矢作大豆 (4) 六条大麦

解説

「爰も三河 むらさき麦の かきつばた」
藤川宿西棒鼻(入口)の近くに芭蕉の句碑が建てられています。この句にあるように、藤川宿では江戸時代から「むらさき麦」の栽培が盛んだったようですが、近年は全く見られなくなっていました。ところが、その種子が愛知県立農業大学校に保存されており、再び栽培に成功したのです。今では、芭蕉の残した句のように、初夏になると紫に染まった麦が人々の目を楽しませてくれます。



藤川宿芭蕉句碑(岡崎市藤川町)

問題91

現在の岡崎の町割りの元をつくったのは、家康公の関東移封後に岡崎城主となった豊臣家臣の田中吉政です。彼は東海道を城下町に引き入れ、屈折の多い道筋としました。この道を称して何と呼ぶでしょうか？

- (1) 岡崎二十七市場 (2) 岡崎二十七道
(3) 岡崎二十七町 (4) 岡崎二十七曲

解説

岡崎二十七曲がりと呼ばれるクランク状の屈折は、伝馬地区ではさほど見られず、主に城郭内外を隔てる惣門を入ってからが顕著です。天正12年(1590)、豊臣大名の田中吉政が岡崎に入部すると、周囲に惣堀を巡らし土塁や土塀で囲んだ「惣構え」の城郭を築きました。この中に主に大勢の家臣とその家族たちが居住したのですが、同時に彼らの生活を支える商家や職人などの町屋が必要になりました。できるだけ多くの町屋を造るために街道を屈折させ、矢作宿などから移住させたと考えられています。



籠田惣門モニュメント(岡崎市籠田町)

解答… (4)

問題92

田中吉政は、関ヶ原の合戦では家康公の東軍に味方し、石田三成を捕らえた功もあり、戦後、大大名として岡崎より国替えとなりました。どこの城主となったのでしょうか？

- (1) 出雲 松江 (2) 近江八幡
(3) 筑後 柳川 (4) 大和郡山

解説

田中吉政は近江国出身の武士で、関白になった秀吉の甥 秀次付の宿老として大きな信頼を得ていました。秀次が近江八幡城主となると、城や城下町の建設、八幡堀の掘削などは吉政が主導して行ったと考えられています。後に岡崎城主となり、関ヶ原合戦後はその功を認められて筑後柳川(福岡県柳川市)32万石の大大名となりました。吉政は柳川でも堀の掘削や治水事業、慶長土居の造成(干拓による新田開発)を手掛け、城下の発展に尽くしました。堀割りは現在でも水郷 柳川の観光に活かされ、川下りの「どんこ舟」が運航されています。



田中吉政石像(岡崎市籠田町)

解答… (3)

問題93

神君 家康公生誕の地である岡崎には、江戸時代を通して家格の高い譜代の大名家4家が藩主となりましたが、もっとも長い期間、岡崎藩主を務めたのはどの家でしょうか？

- (1) 本多家(前本多 豊後守広孝系)
- (2) 水野家
- (3) 松井松平家
- (4) 本多家(後本多 平八郎忠勝系)

解説

岡崎藩主は、明治の版籍奉還を迎えるまで四家の譜代大名が務めました。最初は広孝系本多康重が藩主となり、四代 利長の時に遠江横須賀へ5万石で転封されました(46年間)。次に藩主となったのが水野忠善です。水野家の時代には幕閣の重職に就く藩主を輩出しましたが、七代目 忠任の時に唐津藩6万石に転封されます(117年間)。次の藩主は松井松平康福です。この時は矢作川氾濫などの災害に見舞われ、僅か一代で石見国浜田藩に転封となりました(8年間)。その後を継いだのが忠勝系本多忠肅です。この本多家は六代 忠直まで、明治の版籍奉還まで続いたのです(102年間)。



岡崎城二の丸で発掘された水野家の家紋「沢潟紋」

解答… (2)

問題94

現在、岡崎市は長野県佐久市と「ゆかりの町」提携をしていますが、どんなゆかりがあるのでしょうか？

- (1) 家康公の従弟の水野勝成が、佐久 田野口藩主になったことから
- (2) 家臣の大岡家が、佐久と西大平(岡崎)の両方に領地を得たことから
- (3) 大給松平家が、陣屋を奥殿(岡崎)から佐久田野口に移したことから
- (4) 佐久での戦いの勝利により、信濃と甲斐の二国を得ることができたから

解説

奥殿藩八代藩主であった松平乗謨は幼少時から聡明で知られ、西洋事情にも通じていました。嘉永6年(1853)のペリー来航後、軍備の増強・革新の必要性を説き、文久3年(1863)には大番頭や若年寄など幕府の要職に任じられます。同年、藩庁を手狭な奥殿から、領地の多くが存在する信濃佐久郡の田野口(現在の長野県佐久市田口)に移転し、新たに西洋式星形要塞である龍岡城を建設しました。明治になり名を大給 恒と改め、西南戦争時には佐野常民と日本赤十字社の設立に奔走、副総裁となりました。



龍岡城五稜郭の堀(長野県佐久市)

解答… (3)

問題95

岡崎城^{てんしゆかく}天守閣前には、家康公^{いこんひ}遺訓碑「人の一生は・・」があり、東照公^{とうしやうこう}遺言碑^{ゆいごんひ}「わが命^{たんせき}旦夕^{せま}に迫るといへども・・」があり、家康公の生涯^{のこ}が後世に伝え遺す言葉がここに^{のこ}あります。

「神州^{しんしゅう}の大気^{たいき}ぞ菊^{きく}に 添^そう葵^{あおい}」の文学^{くひ}句碑もあり、江戸時代の国のあり方を教えてください。これは誰の句でしょうか？

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| (1) 阿部龍太郎 ^{あべりゅうたろう} | (2) 司馬遼太郎 ^{しばりょうたろう} |
| (3) 徳川慶喜 ^{とくがわよしのお} | (4) 山岡荘八 ^{やまおかそうほち} |

解説

岡崎城天守の前庭には様々な碑が建てられています。[文学碑]をご存知でしょうか。作家の山岡荘八氏が1950年から17年間、新聞連載した「小説 徳川家康」の顕彰碑です。家康公出生の部分の一文と、生涯をかけて成し遂げた天下平定の先にある、この国のカタチ一天皇家の存在とそこのかかわりを見事に表現しています。家康公は天皇家を軽んずる気持ちなど毛頭なく、むしろその尊い存在を、国家という枠組みの中でどのように位置付けていったのか、見事な文章で著しています。



「文学碑」(山岡荘八書／岡崎公園)

問題96

家康公生誕の城 岡崎城のある岡崎公園には、家康公の銅像が立っています。家康公は、どこを見つめているのでしょうか？

- | | |
|--------|---------|
| (1) 江戸 | (2) 京の都 |
| (3) 西国 | (4) 松平郷 |

解説

岡崎公園二の丸跡に立つ家康公の銅像は、昭和40年(1965)、「家康公350年祭」(没後350年)を記念して建てられたものです。関ヶ原の合戦を終えた59歳の時の像で、実に厳しい表情をしています。家康公が岡崎から江戸の方角を向き、これから先、どのような平和社会を創り上げていくのかを自問自答しているように見えます。戦国武将として、戦に勝ち権力を掌握することが目的ではなく、権力は平和国家を創るための手段と考えていたのでしょうか。19歳で得た「厭離穢土 欣求浄土」の重い命題を背負っているようです。



徳川家康銅像(岡崎公園)

問題97

家康公は、その一生を通して私たちに大きな教訓を残しています。有名な「東照公遺訓」の次の一節の空欄(カッコ)に入る言葉は何でしょうか？

『()を常と思えば不足なし、心に望みおこらば困窮したる時を思い出すべし』

- (1) 堪忍 (2) 困難
(3) 無事長久 (4) 不自由

解説

家康公が残した遺訓が私たちに語りかけることは何でしょうか。「人の一生は重き荷を負うて遠き道を行くが如し」で始まる言葉は、人生訓そのものです。「不自由を常と思へば不足なし」とは豊かになり過ぎた私たちの更なる欲望に対する警告でしょう。奢ることなく、困窮していた時のことを忘れなければ多少の不自由も苦にならないという戒めです。この遺訓に出てくるキーワードは「堪忍」「怒りは敵」「己を責めて人を責めるな」等です。自分に当てはめて考えてみたいものです。



東照公遺訓碑(岡崎公園)

解答… (4)

問題98

幕末と言われる江戸時代の最後、徳川政権が倒れ明治維新となりました。「江戸のふるさと、岡崎」は苦悩の時代に入ったとはいえ、日本の礎を築いたこの地の誇りは高く、近代日本の波をいち早く学び、受け入れ、全国67番目には市制を施行しました。それは、明治維新からおおよそ何年後のことでしょう。

- (1) 50年後 (2) 75年後
(3) 100年後 (4) 150年後

解説

岡崎市は大正5年(1916)7月1日に市制を施行し、愛知県3番目、全国67番目の市として誕生しました。江戸の発祥のもと、岡崎が三河武士の誇りを礎に新しい時代の空気を受け入れ、勤勉に学び、金融や産業を育て、明治維新からわずか50年で地域中核の近代都市として体制を整えたことは誇りです。

それから100年、大きな節目を超えて今、「江戸のふるさと、岡崎」のさらなる一歩が始まります。



衝立画
「岡崎市制施行当時の岡崎城絵」
(龍城神社蔵/岡崎公園内)

解答… (1)

問題99

岡崎市の二代目の市長には、徳川四天王の子孫^{しそん}のひとりが選ばれました。誰の子孫だったでしょうか？

- (1) 井伊直政 (2) 酒井忠次
(3) 榊原康政 (4) 本多忠勝

解説

岡崎市制施行後、初代市長は当時の岡崎町長^{せんがまたいち}、千賀又市です。新しい岡崎は経済、教育、文化など充実して基礎固めが始まった矢先、2年後の在職中に急逝。近代都市を確立する大切な時期ゆえに地域一丸となって検討し、岡崎藩最後の藩主 本多忠直を継いだ十七代 本多忠敬^{ただあつ}の実弟、本多敏樹^{としき}を二代目市長に依頼。以後、3期12年間(大正7年～昭和5年)、殿さま市長と敬愛されながら岡崎の基礎を固めました。

大正8年(1919)に兄 忠敬より寄附された旧岡崎城跡一円を5年をかけて岡崎公園として整備。殿橋の架橋も行っています。



岡崎二代目市長 本多敏樹氏

解答… (4)

問題100

徳川記念財団^{とくがわ きねんざいだん}が設立(平成15年)された直後、財団主催の事業が岡崎で始まりました。「江戸のふるさと、岡崎」にふさわしく、次代を担^{にな}うこの地の小中学生を対象にした事業とは何でしょうか？

- (1) 家康行列 (2) 家康公検定
(3) 家康公作文コンクール (4) 徳川みらい学会

解説

家康公作文コンクールは今年(2016年)で13回目の実施となります。毎年、岡崎市内の小中学生から1000点近くの応募があり、家康公を学び、家康公に学ぶという積極的な姿勢が素晴らしいと感じます。特に近年は、親子で家康公の史跡を訪ね、その生き方^ふに直接触れることで得た感動や教訓を中心に捉えた、中身の濃い作文が増えたようです。岡崎の子どもたちがこの町の未来を創り、さらにこの国の未来を創っていくとする時、この作文コンクールの意義は非常に大きいものと言えるでしょう。



徳川恒孝さんを囲んで
(2015年家康公作文コンクール表彰式／龍城神社)

解答… (3)